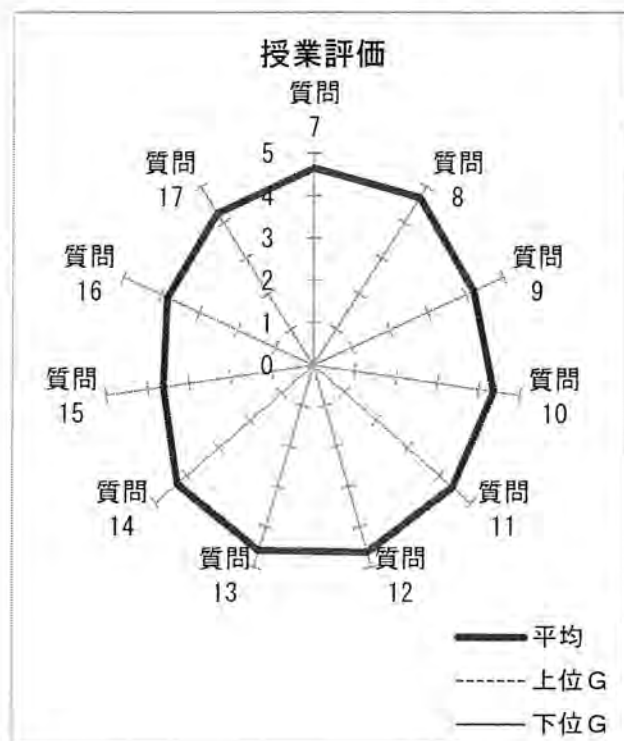


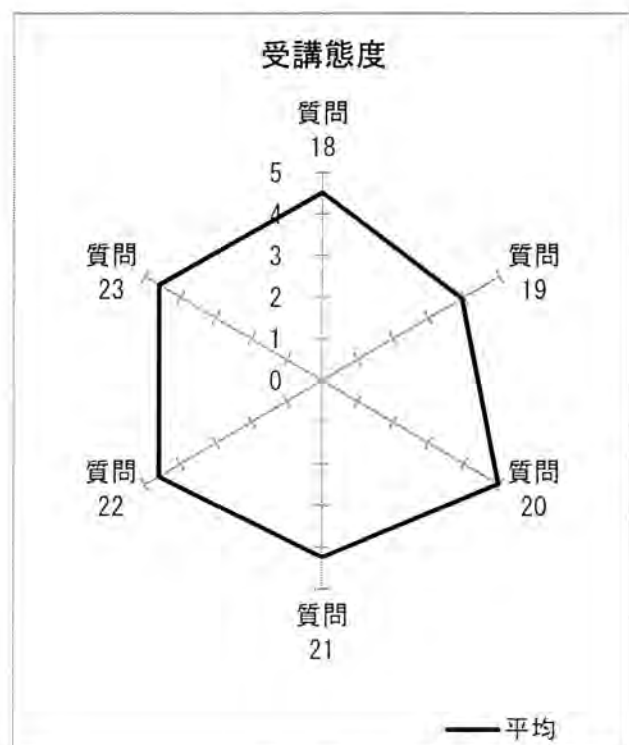
科目コード 602 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 吉井 学 生化学実験



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 8	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 9	4.2	4.2	#DIV/0!
質問10	4.4	4.4	#DIV/0!
質問11	4.4	4.4	#DIV/0!
質問12	4.6	4.6	#DIV/0!
質問13	4.6	4.6	#DIV/0!
質問14	4.3	4.3	#DIV/0!
質問15	3.6	3.6	#DIV/0!
質問16	3.8	3.8	#DIV/0!
質問17	4.3	4.3	#DIV/0!
平均	4.3	4.3	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	3.9
質問20	5.0
質問21	4.2
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.5

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	吉井 学	生化学実験	46名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本科目は1年生の科目であり、管理栄養士には必須の生化学を学ぶにあたって実験をとおして生化学の基礎を学ぶ科目である。実験では化学的な知識と実験手技の両面の要素が必要である。高校で化学を履修しなかった学生も多く、履修した学生でも化学に対して不得手意識が強い学生が多い。また、この科目での実験を理解するためにはヒトの生体成分についても多くの知識を必要とする。そのため、理解してもらうには相当の時間を必要とすることは明らかである。さらに、化学実験であるため実験事故を起こさないための繊細な注意を必要とする実技科目である。

今回の分析では質問15と16の理解度に関するものと関心に関するものの評価が低かった。これは授業で使用する科学用語の難解さと学生の不得手意識の負の相乗効果であると推測する。大半の学生はカタカナ表記が不得手なものが多い。化学(科学)実験では薬品名や反応物質が英語表記やカタカナ表記がほとんどであるため、前向きには受講していない。改善策としては講義内容についての補講とは別に基礎化学の補講の実施において科学用語の解説を徹底することと思われる。用語が理解できれば実験内容等は興味を感じる部分が増加すると考える。次年度は今以上に「生化学への道しるべとしての化学」と位置付けて授業を進めようとする。授業方法の変更点は授業後に要点整理の時間を取り、質問時間を増やそうと考える。

II. 2019 年度に向けての取り組み

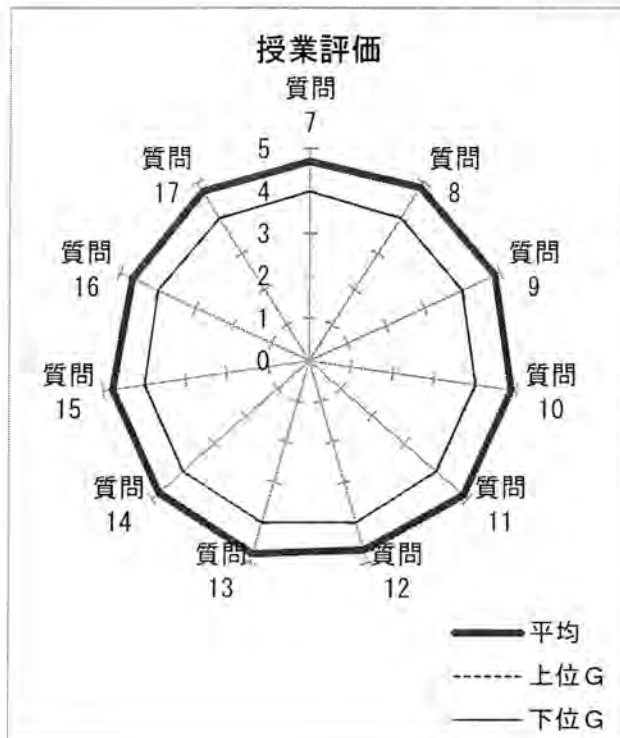
2019 年度担当予定科目名： 生化学実験化学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生が質問をしやすい環境を整備する。具体的にはグループ学習の推進である。化学の用語が理解できない学生は、質問したくても周囲の学生の目を気にして質問しなかったり、解らない授業内容の把握すらできない学生が存在している。そこで質問カードの整備を実施し、実験実習班内で分からないのは自分だけではないということを気付かせたいと考える。また、予習・復習をグループで行わせることで学習時間内は集中することを体得させたい。グループ内で解らない事項や語彙について調べる。そして質問することを習慣づけたい。さらに、実験科目であるから実験レポートの提出の徹底により、レポートを介したQ&Aの内容を濃いものとする。

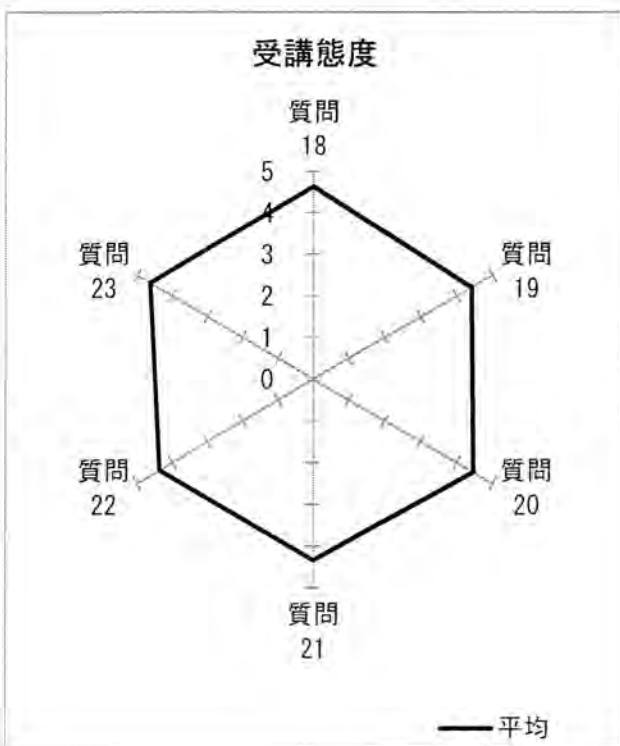
科目コード 605 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 池田 光彦 食品衛生学



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	4.0
質問 8	4.9	4.9	4.0
質問 9	4.9	4.9	4.0
質問10	4.9	4.9	4.0
質問11	4.9	4.9	4.0
質問12	4.7	4.7	4.0
質問13	4.8	4.8	4.0
質問14	4.8	4.8	4.0
質問15	4.8	4.8	4.0
質問16	4.7	4.7	4.0
質問17	4.8	4.8	4.0
平均	4.8	4.8	4.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.4
質問20	4.5
質問21	4.3
質問22	4.4
質問23	4.6
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	池田光壺	食品衛生学	47

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

【授業評価について】

質問 7～質問 17 について、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した者が全くいなかったなので良い結果だったと捉えた。

【受講態度について】

受講態度については、全項目が 4.3 以上であり、ある程度の満足度は得られていると推測する。ただ、質問 19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」の評価が他項目よりも低かったので、この項目について優先して対応していきたいと考えている。

II. 2019 年度に向けての取り組み

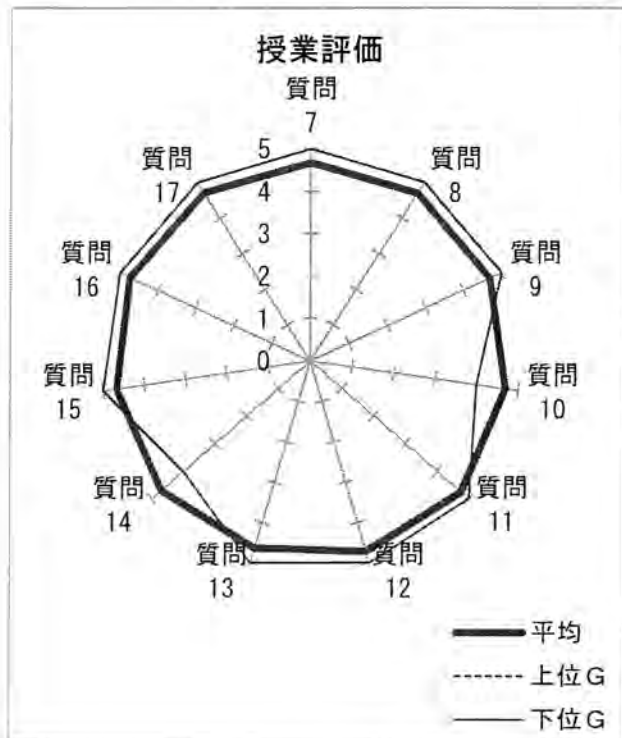
2019 年度担当予定科目名：食品衛生学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

これまで通りの授業で良さそうであるが、同じ授業であっても受講生が変わった場合、同じ結果が得られるとは限らない。従って、適宜、受講生の様子やニーズを確認しながら授業展開を考えていく。

科目コード 606 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 久木野 睦子 調理学実習Ⅱ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	5.0
質問 8	4.7	4.7	5.0
質問 9	4.7	4.7	5.0
質問10	4.7	4.7	4.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.7	4.7	5.0
質問13	4.6	4.6	5.0
質問14	4.7	4.7	4.0
質問15	4.7	4.7	5.0
質問16	4.7	4.7	5.0
質問17	4.7	4.7	5.0
平均	4.7	4.7	4.8

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

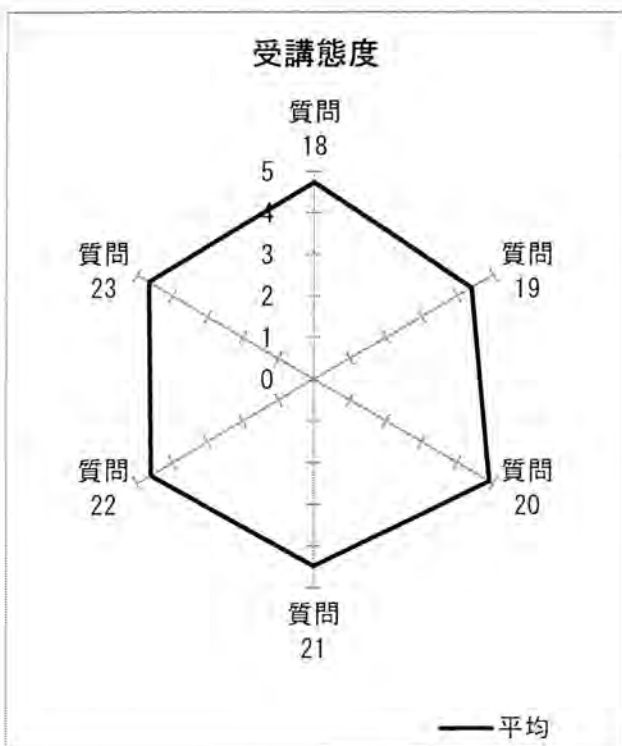
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.4
質問20	4.9
質問21	4.5
質問22	4.6
質問23	4.7
平均	4.6

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	久木野 睦子	調理学実習Ⅱ	46

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

昨年度も本科目の評価を実施したが、昨年より低い値となった項目はなかった。また平均値はわずかだが昨年より高い結果であった。しかしチャートを見ると下位グループでは質問 10 と質問 14 で大きくへこんだ形を描いていた。値を見ると上位グループは 4.7 であったが下位グループ 2 名の評価はいずれの項目も 4.0 であった。質問 10 は「教材・機器・板書の効果的な使用」であるが、おそらく教員が調理する手元を映像で示す際のカメラの扱いに満足しなかったものと思われる。また質問 14 は「学生の理解度の確認と適切な対応」であるが、当該学生が充分理解できていないことに気付かず個別指導ができなかったと思われる。しかしこの 2 名の学生は、上記 2 項目以外は全て 5 と評価し、上位グループより高い評価であったので、おおよそ本科目において大きな問題はなかったものと考えている。

MS 明朝 10.5 ポイント

英文の場合は Times New Roman 11p

II. 2019 年度に向けての取り組み

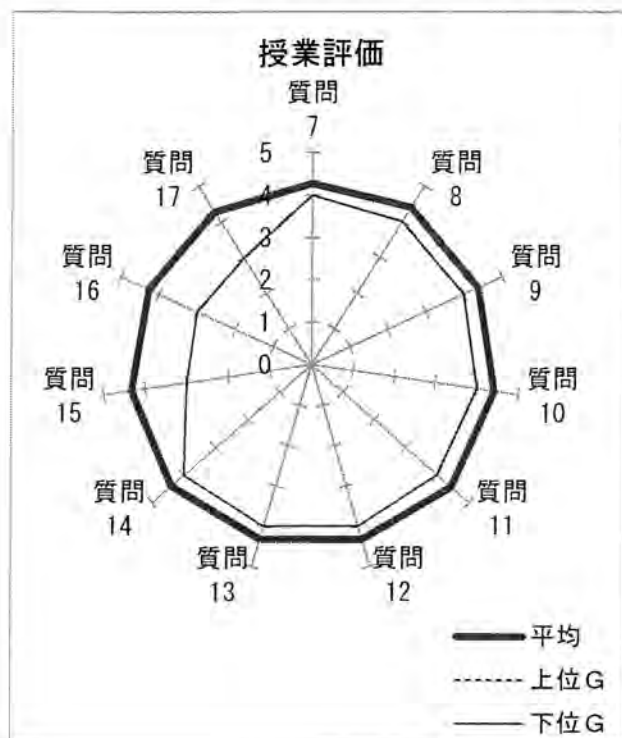
2019 年度担当予定科目名：調理学実習Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

本実習では、例年 4～5 品の料理からなる献立で実習を行っているが、学生が作業に入る前に示範を行っており、限られた時間内に全ての料理を学生の前で作り上げるためには、同時進行で複数の料理を作らなければならない。そのため、十分に予習をしていないと説明がわかりにくく感じることもあると考えられるので、学生には実際の作業をイメージしながら予習をしてくるように促したい。また教員の調理作業をモニターで映すようにしているが、カメラの切り替えがうまく行っていないことがあるので、学生に分かりやすい映像を映せるように留意したい。さらに、本科目は 1 年生対象科目なのでまだ包丁作業に慣れていない学生や調理そのものが苦手な学生、他の学生とコミュニケーションを取るのが苦手な学生などさまざまなので、一人一人の学生の特性に応じた個別指導も心がけたい。

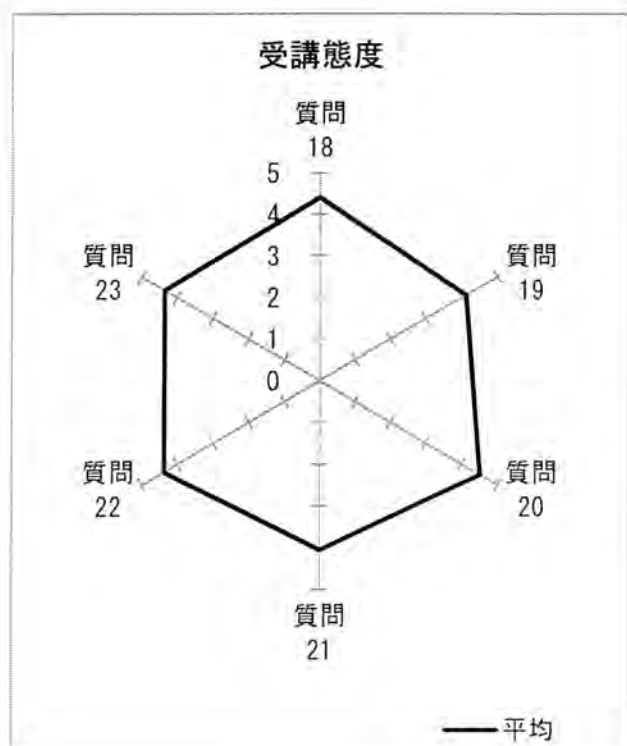
科目コード 607 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 上江洲 香代子 応用栄養学Ⅱ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.3	4.3	4.0
質問 8	4.4	4.4	4.0
質問 9	4.4	4.4	4.0
質問10	4.4	4.4	4.0
質問11	4.4	4.5	4.0
質問12	4.3	4.3	4.0
質問13	4.3	4.3	4.0
質問14	4.4	4.4	4.0
質問15	4.3	4.4	3.0
質問16	4.3	4.3	3.0
質問17	4.3	4.3	3.0
平均	4.3	4.4	3.7

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.1
質問20	4.5
質問21	4.1
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.3

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	上江洲香代子	応用栄養学Ⅱ	53 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価は全項目平均 4.3～4.4 で、昨年とほとんど変わらない。全項目において平均と上位グループはほぼ近いポイントでグラフも円形を成して重なっている。下位グループでは 3.0～4.0 と低い項目もある。全ての項目においてより一層の改善努力を要すると考える。

受講態度についても平均 4.1～4.5 で、昨年とほとんど変わらない。学生の自己評価を高め満足度を高めていくことが教員の授業評価の上昇につながっていくと考えるため、学生自身の理解や興味・関心・を高めるにはどうしたら良いかをより一層考えながら授業を行うつもりである。

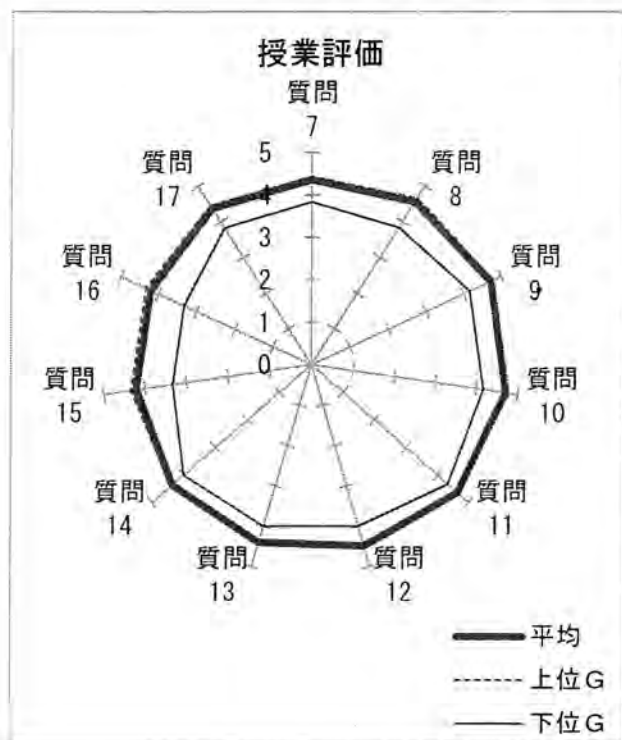
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名： 応用栄養学Ⅱ

わかりやすい授業説明のためにさらなる工夫をするつもりである。教員の話し方の改善を常に心掛ける。説明の仕方や板書方法を工夫する。また OHC や教材用 DVD などの映像をこれまで以上に利用し学生の授業への興味や関心を喚起し、さらに理解を深めてもらうようにしたいと考える。一方的な授業にならないように、質疑応答などを工夫し、学生とコミュニケーションを取りながら授業を進める。小テストも頻繁に実施して、予習・復習の動機づけとしたい。また授業評価の中間アンケートなども利用し、学生の理解状況や要望などを細かく把握し授業の組み立てに利用していく。

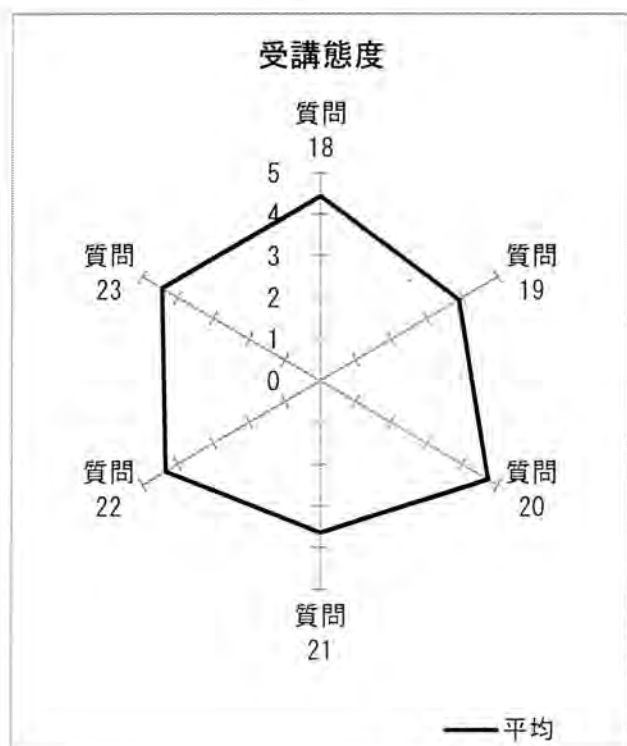
科目コード 611 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 松永 知恵 栄養教育論 I



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.4	4.4	3.8
質問 8	4.6	4.7	3.8
質問 9	4.7	4.8	4.2
質問10	4.7	4.8	4.2
質問11	4.6	4.7	4.3
質問12	4.5	4.6	4.0
質問13	4.4	4.5	4.0
質問14	4.4	4.4	4.0
質問15	4.2	4.3	3.3
質問16	4.2	4.3	3.3
質問17	4.4	4.5	3.8
平均	4.5	4.5	3.9

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	3.9
質問20	4.7
質問21	3.6
質問22	4.3
質問23	4.4
平均	4.2

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	松永 知恵	栄養教育論 I	51

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の平均点は良い評価であった。昨年は授業評価の質問 15, 16, 17 で上位と下位に大きく差が開いたが、今年度は質問 17 の差が縮まったようだ。例年、理解不足の学生の対応を検討してきて、その効果が少しは出たのかもしれない。ただ、学年が変わると理解度も異なるので、随時、見直していきたい。質問 16 の興味・関心・意欲の引き出し方として、アクティブラーニングを取り入れるなど自発的な学びができるような工夫もしているのだが、質問 15～17 の下位層への対策は今後も検討事項であるので、継続して授業の進め方を工夫していき、学生の理解度・満足度を高めたい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

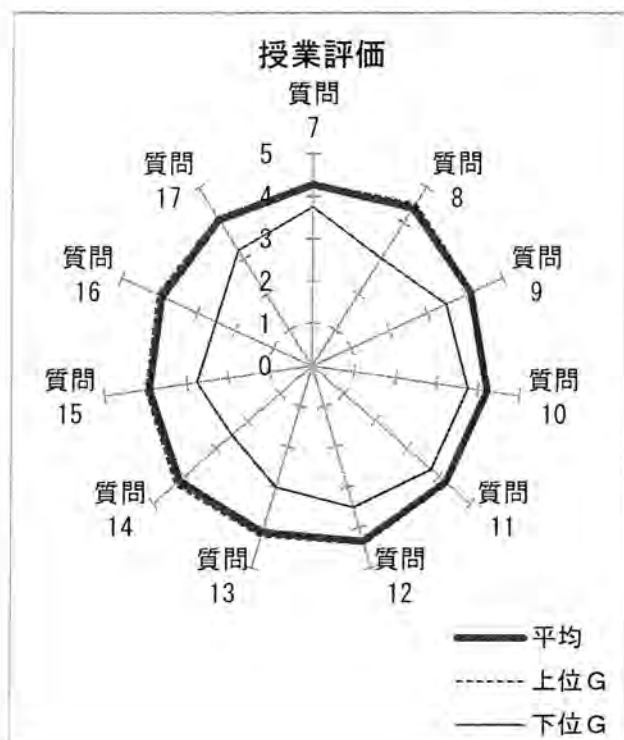
2019 年度担当予定科目名： 栄養教育論 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生が授業を理解できているか否かを確認するためにも、今年度以上に小テストを入れて、全体の理解度を上げられるようにしたい。また、これまでの評価の気づきも忘れずに、今後も教育内容を充実させ、学生の意欲を高めるような授業運営を工夫したいと考える。今回の結果も今後の授業に反映し謙虚に学生への教育に励みたい。

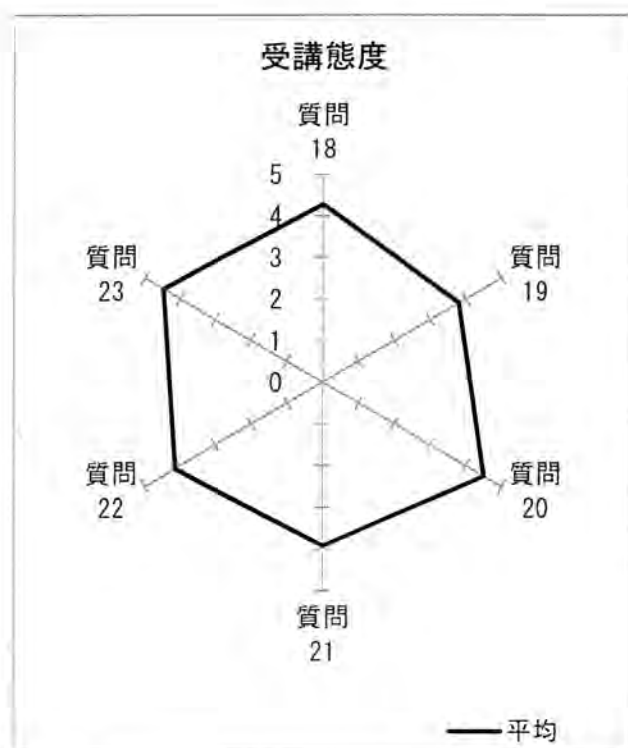
科目コード 612 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 福田 理香 運動生理学



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.3	4.3	3.8
質問 8	4.4	4.5	3.0
質問 9	4.2	4.2	3.5
質問10	4.2	4.3	3.8
質問11	4.2	4.3	3.8
質問12	4.3	4.4	3.5
質問13	4.1	4.2	3.0
質問14	4.2	4.3	2.5
質問15	3.9	4.0	2.8
質問16	3.9	4.1	2.5
質問17	4.1	4.2	3.3
平均	4.2	4.3	3.2

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	3.8
質問20	4.5
質問21	3.9
質問22	4.1
質問23	4.5
平均	4.2

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	福田 理香	運動生理学	52 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

これまでも何回かこの科目について授業評価を実施している。今回ほとんどの項目において 4 点台の高い評価を得ているが、2016 年度の評価と比較して全体的に若干ではあるが低下している。中でも下位 G の質問 14「学生の理解度の確認と授業への反映」、質問 16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」に対する評価が 2.5 と低い評価である。質問 14 に対しては、毎時間、質問の時間を設けているが、小テスト等を頻繁に実施しているわけではないため、このような結果が出たものと考えられる。また、質問 16 に対しては、できるだけ具体例を出して栄養士の立場から運動の必要性・重要性を考えられる内容を盛り込んだ授業を行うように心がけているが、下位 G の学生が栄養と運動の関連性について理解するには至っていないということを反映しているものと思われる。

II. 2019 年度に向けての取り組み

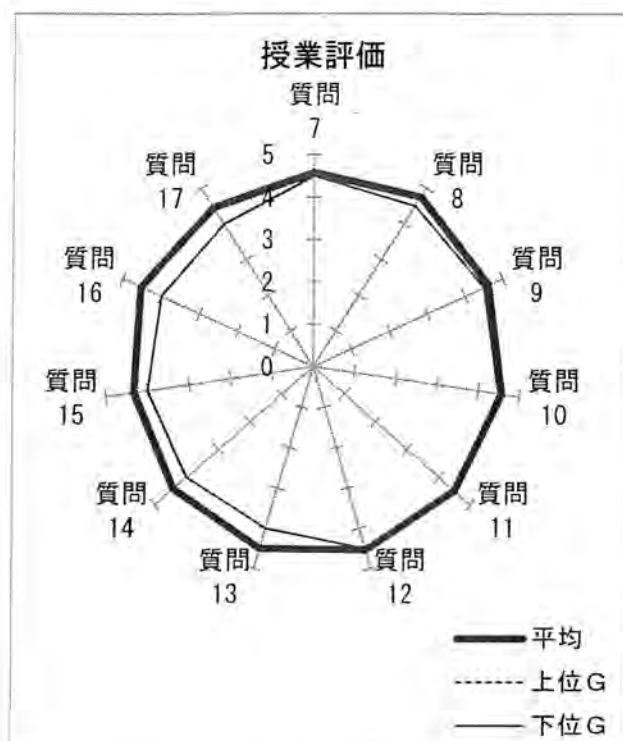
2019 年度担当予定科目名： 運動生理学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

運動生理学は、基礎専門科目に位置付けられてはいるが、本学科の基礎専門科目である「人体の構造と機能」や「生化学」等をベースとした科目である。これらの単位を取得したうえで本科目を受講しているので、生理学・生化学の基本的な知識は理解していると考えて授業を展開してきたが、“運動”時の人体の反応と関連付けて考えることができない学生がいるようである。2019 年度は頻繁に小テストを実施し、各テーマ理解度をチェックしながら、授業を展開していきたいと考えている。また、知識を教える一方向的な授業ではなく、管理栄養士として色々な対象の栄養・食事管理をする上で運動生理学の知識を活かせるような、考える演習的な時間を組み入れたいと思う。

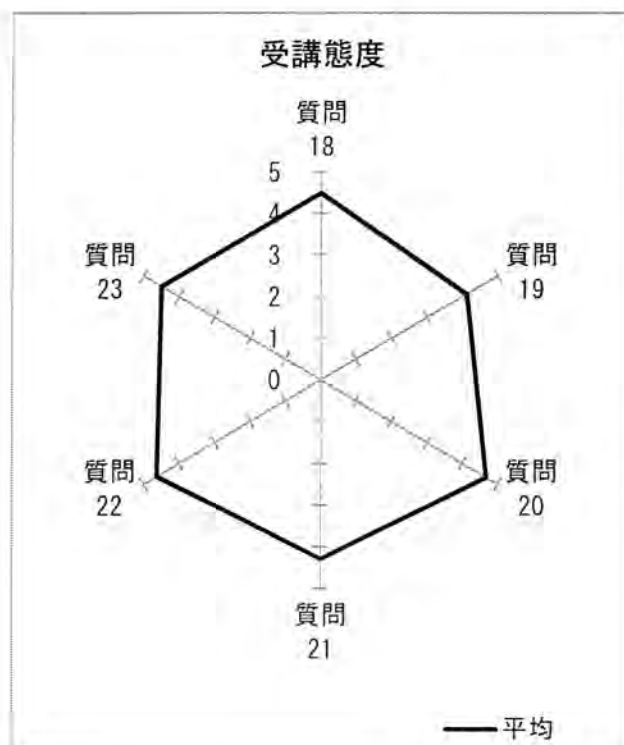
科目コード 615 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 上江洲 香代子 応用栄養学実習Aクラス



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.6	4.6	4.5
質問 8	4.8	4.8	4.5
質問 9	4.6	4.6	4.5
質問10	4.6	4.6	4.5
質問11	4.5	4.5	4.5
質問12	4.5	4.5	4.5
質問13	4.5	4.5	4.0
質問14	4.4	4.5	4.0
質問15	4.3	4.4	4.0
質問16	4.5	4.6	4.0
質問17	4.5	4.5	4.0
平均	4.5	4.6	4.3

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.1
質問20	4.7
質問21	4.3
質問22	4.6
質問23	4.5
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	上江洲香代子	応用栄養学実習 A	27 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価は全項目平均 4.4～4.8 で、昨年より 0.4 前後上昇した。全項目において平均と上位グループはほぼ近いポイントでグラフも円形を成して重なっている。下位グループにおいても 4.0～4.5 と昨年度より 0.5 前後上昇した。これは昨年よりも 1 クラスの人数が少なくなったため、より丁寧に対応ができていた結果なのか。これまでも同じ項目でも調査年度や対象学生によって評価が上下しており、教員の努力の結果なのかは不明である。今後もその年の学生に応じた内容を工夫する必要がある。今年度は AB クラス別にアンケートを実施したが、下位グループの学生の評価が B クラスでは高かった。

受講態度については平均 4.1～4.7 で、昨年度より 0.5 前後低下した。今後も学生の自己評価を高め満足度を高めるように一層の努力が必要と考える。

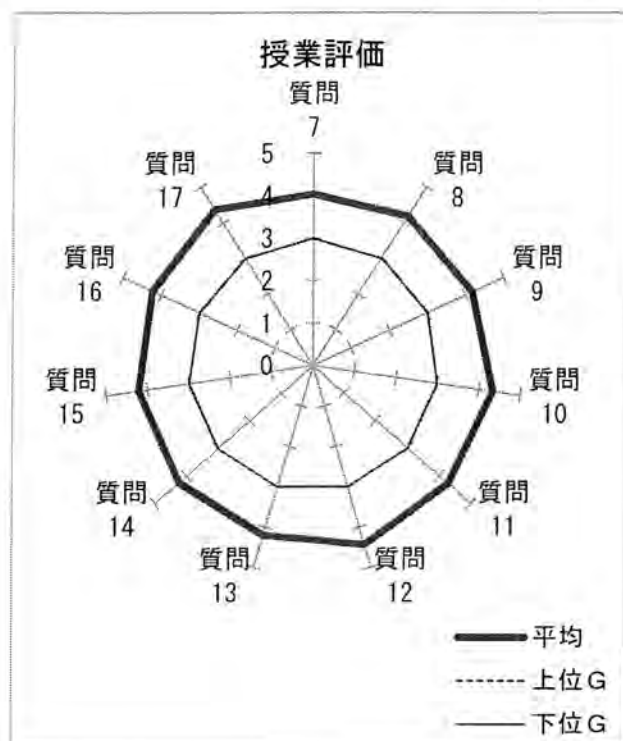
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名： 応用栄養学実習

わかりやすい授業説明のためにさらなる工夫をするつもりである。実習内容に新しい項目を追加して学生の授業への興味や関心を喚起し、さらに理解を深めてもらうようにしたいと考えている。授業内容や到達目標の理解についても改めて確認しながら進めたい。

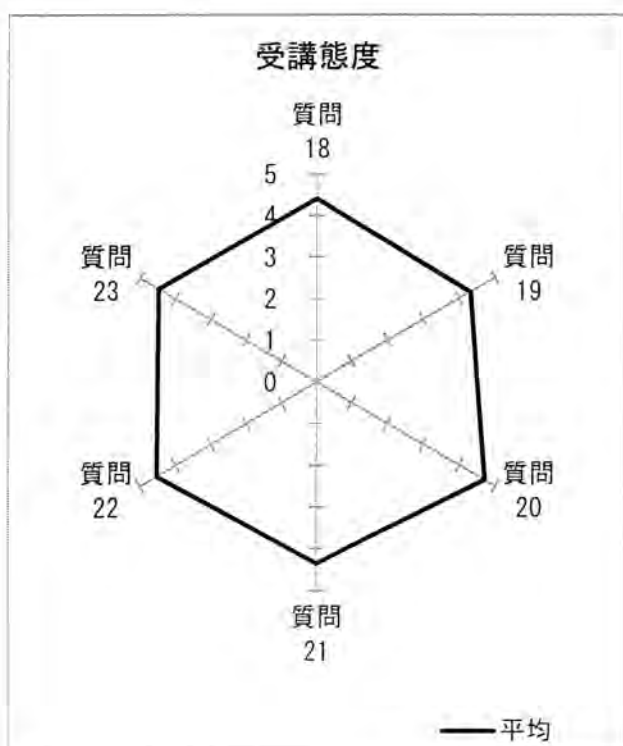
科目コード 616 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 上江洲 香代子 栄養学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.0	4.1	3.0
質問 8	4.2	4.2	3.0
質問 9	4.2	4.2	3.0
質問10	4.3	4.4	3.0
質問11	4.3	4.3	3.0
質問12	4.4	4.5	3.0
質問13	4.2	4.2	3.0
質問14	4.2	4.3	3.0
質問15	4.2	4.3	3.0
質問16	4.2	4.3	3.0
質問17	4.4	4.4	3.0
平均	4.2	4.3	3.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.3
質問20	4.7
質問21	4.4
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	上江洲香代子	栄養学	46 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価は平均 4.0～4.4 で、昨年と、それ程変動は無い。全項目において平均と上位グループはほぼ近いポイントでグラフ上でも重なっている。下位グループにおいては全項目 3.0 で、かなり低い。アンケートを授業最終日に実施できずに、試験当日に実施したことも少なからず影響したのかもしれない。全ての項目においてより一層の改善努力を要すると考える。

受講態度については平均 4.3～4.7 で、昨年度より 0.2～0.5 ポイント上昇している。授業中の印象からも感じられたことが数字として現れている。これが授業評価にも繋がるように、学生自身の理解や興味・関心・を高めるにはどうしたら良いかをより一層考えながら授業を行うつもりである。

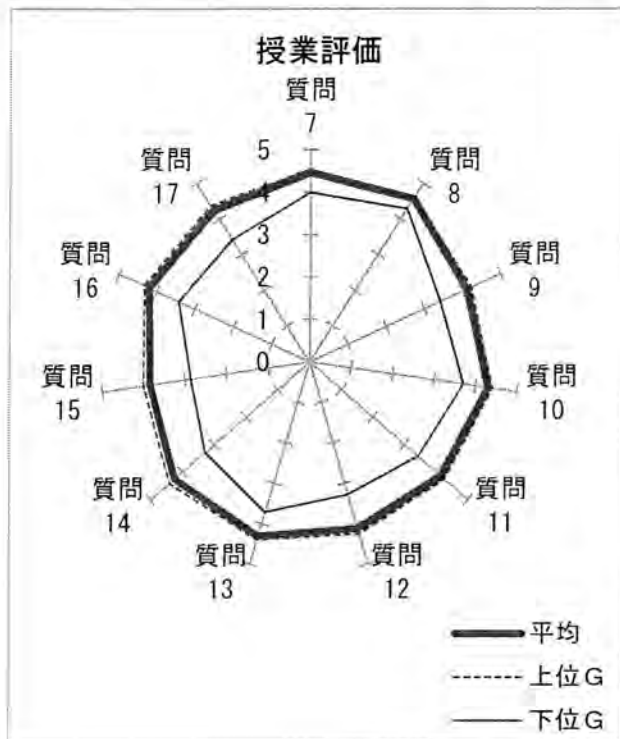
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名： 栄養学

わかりやすい授業説明のためにさらなる工夫をするつもりである。教員の話し方の改善を常に心掛ける。説明の仕方や板書方法を工夫する。また OHC や教材用 DVD などの映像をこれまで以上に利用し学生の授業への興味や関心を喚起し、さらに理解を深めてもらうようにしたいと考える。一方的な授業にならないように、質疑応答などを工夫し、学生とコミュニケーションを取りながら授業を進める。小テストも頻繁に実施して、予習・復習の動機づけとしたい。また授業評価の中間アンケートなども利用し、学生の理解状況や要望などを細かく把握し授業の組み立てに利用していく。

科目コード 617 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 池田 晴美 臨床栄養学Ⅰ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.5	4.5	4.0
質問 8	4.6	4.6	4.3
質問 9	4.1	4.2	3.4
質問10	4.3	4.4	3.7
質問11	4.1	4.3	3.4
質問12	4.1	4.3	3.3
質問13	4.3	4.4	3.7
質問14	4.2	4.4	3.3
質問15	3.8	4.0	2.9
質問16	4.2	4.3	3.4
質問17	4.2	4.4	3.4
平均	4.2	4.4	3.5

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

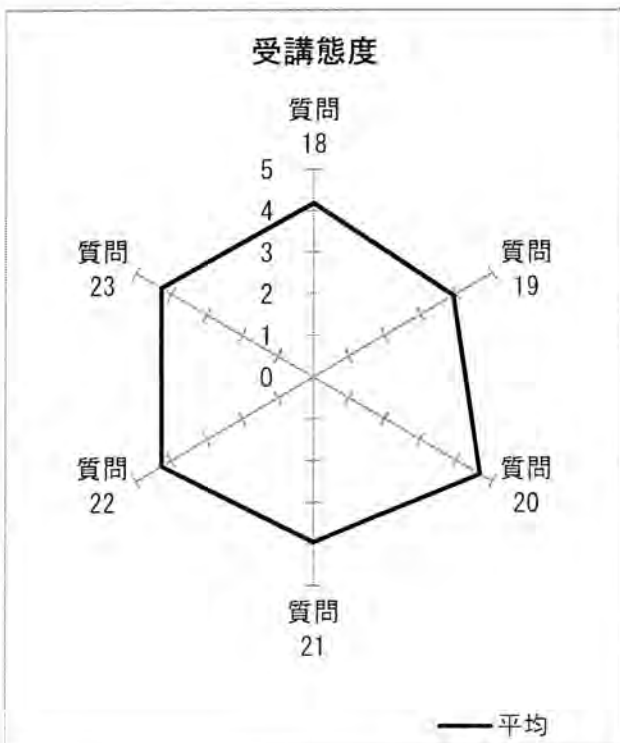
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	3.9
質問20	4.7
質問21	4.0
質問22	4.3
質問23	4.3
平均	4.2

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	池田 晴美	臨床栄養学Ⅰ	51 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

臨床栄養学Ⅰは臨床栄養管理に必要な基礎知識を学習し、傷病者の栄養ケアの知識、技法などを理解することを目的としている。授業評価の平均は 4.2（昨年 4.3）であったため授業評価と受講態度を比較分析した。受講態度の「授業内容や到達目標を理解して受講したか」は 3.9（昨年 3.8）「予習、復習を行ったか」4.0（昨年 3.6）では予習復習をする学生が増加したことが分かった。受講態度の平均 4.2（昨年 4.1）はまじめに取り組もうとした態度はポイントが多少であるが向上していた。授業評価の「教員の説明のわかりやすさ」4.1（昨年 4.4）「質問機会の確保と適切な対応」4.3（昨年 4.2）臨床の内容の難しさからかわかりにくかったと思われるが可能な限り分かりやすい説明を行い実際の症例から興味を引くように工夫しているが初めて聞く言葉が多く今後の説明に配慮したい。質問の機会は毎回取り、丁寧に対応した。

II. 2019 年度に向けての取り組み

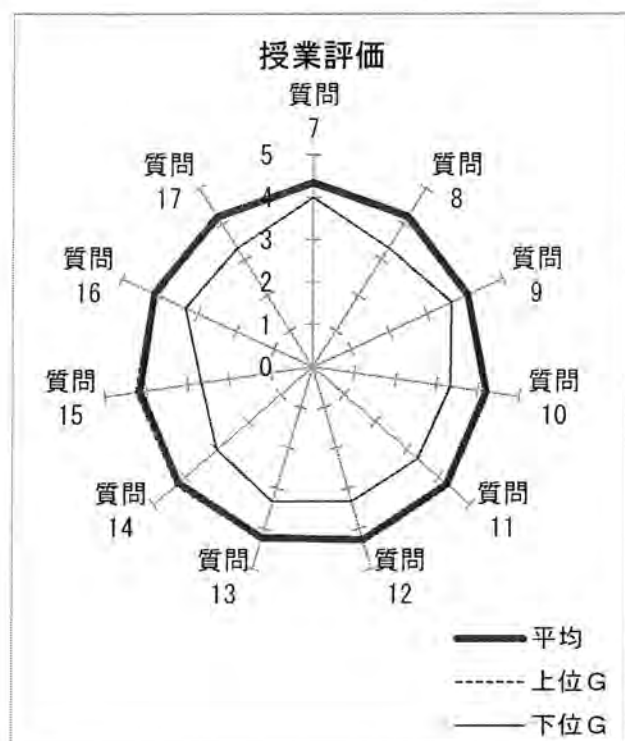
2019 年度担当予定科目名：臨床栄養学Ⅰ

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

臨床栄養学Ⅰは生理学や基礎医学が実際に臨床の場でどのように活用されるのかを学習する科目である。授業内容の難易度については授業最後に聞き取りを行い、難しい内容であったが、具体例が多く楽しく勉強できたとの意見が多かったことから臨床栄養学に興味を持った学生が多かったことは今後の臨床栄養学の第 1 歩となったと考える。

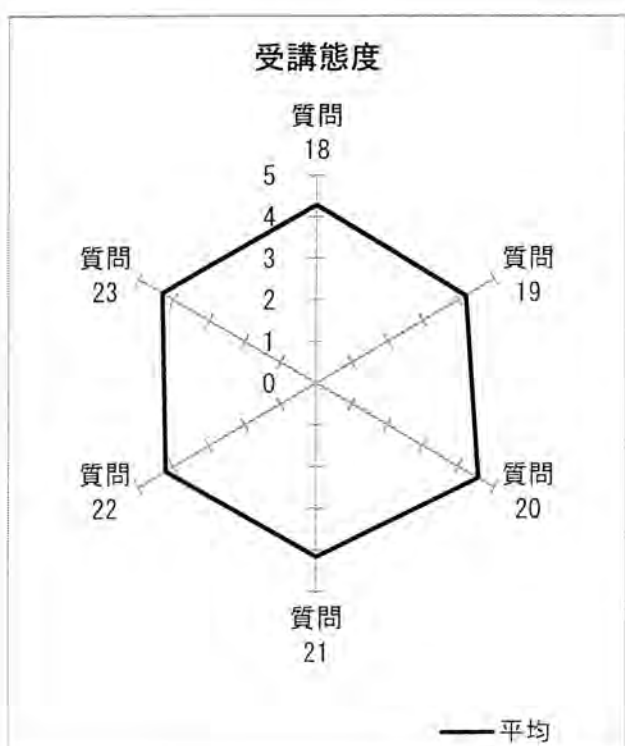
科目コード 618 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 小川 彰子 給食運営論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.3	4.4	4.0
質問 8	4.2	4.3	3.3
質問 9	4.1	4.1	3.7
質問10	4.2	4.3	3.3
質問11	4.3	4.3	3.3
質問12	4.3	4.3	3.3
質問13	4.2	4.3	3.3
質問14	4.2	4.3	3.0
質問15	4.2	4.3	2.7
質問16	4.2	4.2	3.3
質問17	4.2	4.3	3.3
平均	4.2	4.3	3.3

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.2
質問20	4.6
質問21	4.2
質問22	4.2
質問23	4.3
平均	4.3

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	小川彰子	給食運営論	51

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

分析

どの項目もあまり変わらない評価である。

質問 14 質問 15 の下位者の評価点数が低いことは授業中も感じている。

質問 8 教員の授業時間厳守、質問 12 教員の授業環境に対する配慮、質問 13 質問機会の確保と質問への適切な対応が下位グループで低い得点になっている。これらについては十分に対応しているつもりであり、学生が何をもって判断しているのか不明である。

評価

実践的な科目で内容が広範囲にわたっているため、予習復習が必要であるが不十分な学生多い。そのため興味、理解、知識習得の評価点数に関わってくると思われる。

給食を運営するということが現実的なものとして感じられないことが興味を持ちにくい原因ではないか。授業の進め方が早いのかもかもしれないが、全体の分量を考えると遅くするのは難しい。予習復習で補う形が理想なのであるが。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：給食運営論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

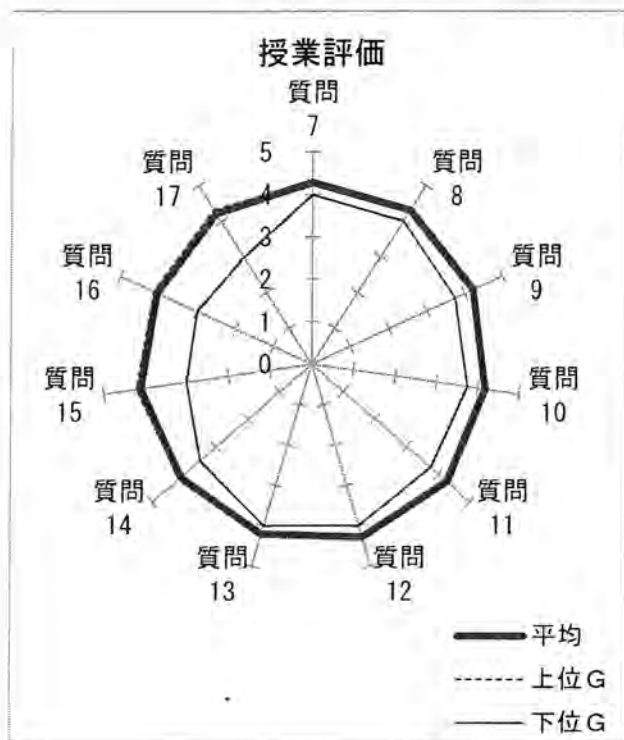
基本的には、現在の授業方法を継続する。)

給食経営管理論よりも実際的な内容を講義することで、似たような内容だと学生に感じさせない授業展開にする。平板な授業ではなく、メリハリをつけた展開になるよう工夫する。予習復習が必要になるような課題を出す。

学生数が少なく、それぞれの特性が掴みにくいが、授業開始前の 3 年時の給食経営管理実習まで続くグループ編成、リーダーの選定方法を慎重に考える。具体的な言葉かけや資料などで、実習への意欲を強く持たせる。献立作成は、自分たちで複数の献立を集めてその中から選ぶ方法を考慮に入れる。

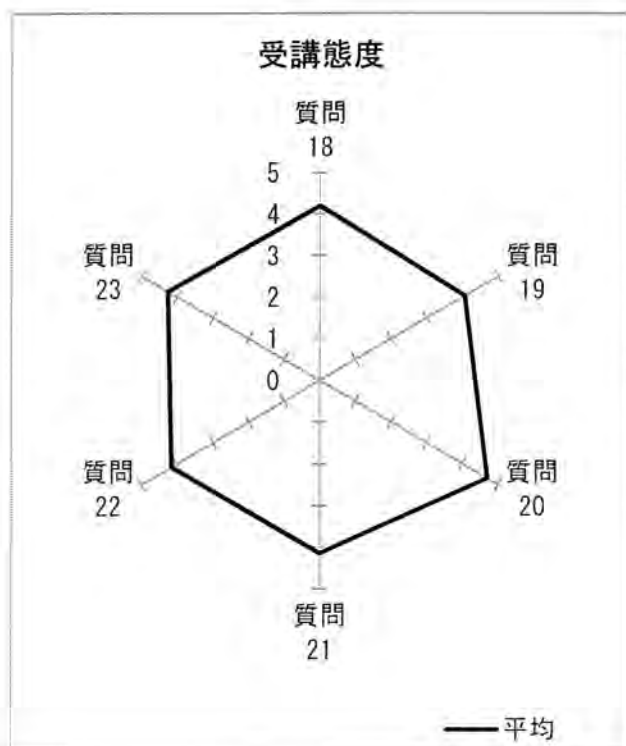
科目コード 619 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 小川 彰子 給食経営管理論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.3	4.3	4.0
質問 8	4.3	4.3	4.0
質問 9	4.2	4.3	3.8
質問10	4.2	4.2	3.8
質問11	4.3	4.3	3.8
質問12	4.3	4.3	4.0
質問13	4.2	4.2	4.0
質問14	4.1	4.2	3.5
質問15	4.1	4.2	3.0
質問16	4.0	4.1	3.0
質問17	4.2	4.3	3.0
平均	4.2	4.3	3.6

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	4.1
質問20	4.7
質問21	4.1
質問22	4.2
質問23	4.3
平均	4.3

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	小川彰子	給食経営管理論	51

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

分析

授業を理解できたか、興味・関心・意欲を引き出したかの項目が他より低く出ている。

成績下位者は上記の評価と、自分が授業を理解できたかが特に低くなっている。

受講態度の、予習復習を行ったか項目が 4 以上とでているが、授業中の学生への確認と矛盾する。

評価

実務的な内容であること、国試の出題状況を考えると省略できる内容はほとんどないを考える。この状況で興味、関心、意欲を引き出すには、教員側の工夫も必要だが、学生の予習復習の必要性が大きい。身近な実例を挙げて講義すること、毎回の振り返りテストや小テストによる理解度判定からの下位者への指導がさらに必要になる。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：給食経営管理論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

現在の授業方法を継続する。

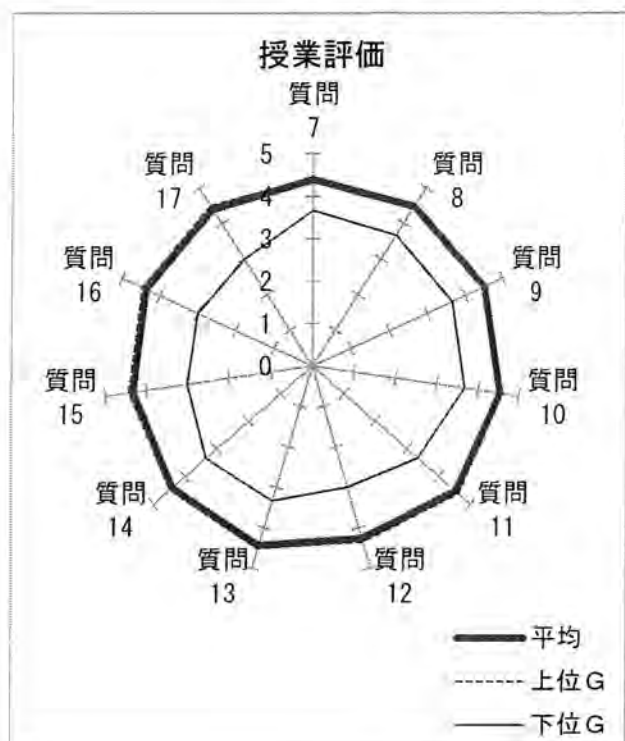
より身近な、分かりやすい実例を挙げて講義する。

小テスト、振り返りテストの結果を明確に公表し、内容説明の時間を増やす。

予習復習につながる策を実行する (個別の記録など)。

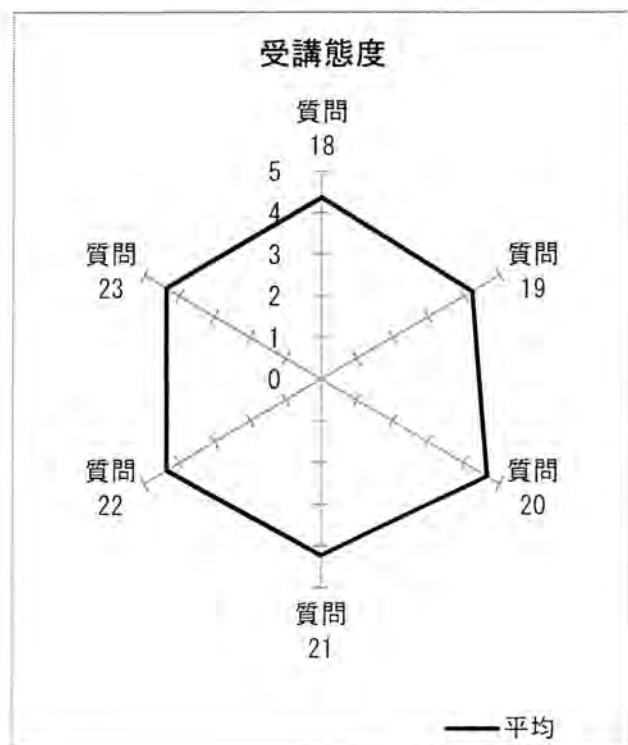
科目コード 621 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 池田 光壺 食品加工学



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.4	4.5	3.7
質問 8	4.5	4.5	3.7
質問 9	4.5	4.6	3.7
質問10	4.5	4.6	3.7
質問11	4.5	4.6	3.3
質問12	4.3	4.4	3.0
質問13	4.4	4.5	3.3
質問14	4.4	4.5	3.3
質問15	4.3	4.4	3.0
質問16	4.4	4.5	3.0
質問17	4.4	4.5	3.0
平均	4.4	4.5	3.3

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.2
質問20	4.6
質問21	4.2
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.4

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	池田光堯	食品加工学	53

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

【授業評価について】

質問 7～質問 17 について、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した者が殆んどいなかったのが良い結果だったと捉えた。ただ、私語が気になる学生が数名いたので、その点については気がける必要があると思われる。

【受講態度について】

受講態度については、全項目が 4.2 以上であり、ある程度の満足度は得られていると推測する。ただ、質問 19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」および質問 21「授業の予習・復習を行ったか」の評価が他項目よりも低かったため、この項目について優先して対応していきたいと考えている。

II. 2019 年度に向けての取り組み

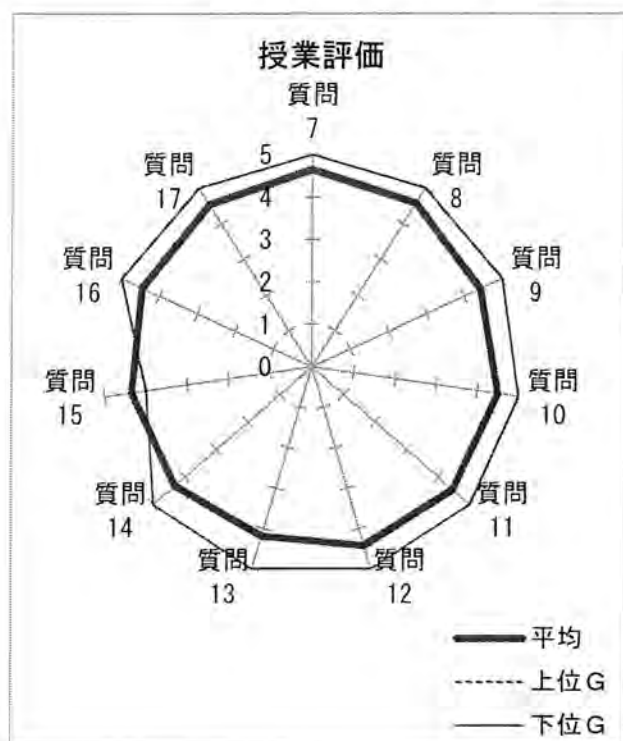
2019 年度担当予定科目名：食品加工学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

これまで通りの授業で良さそうであるが、同じ授業であっても受講生が変わった場合、同じ結果が得られるとは限らない。従って、適宜、受講生の様子やニーズを確認しながら授業展開を考えていく。

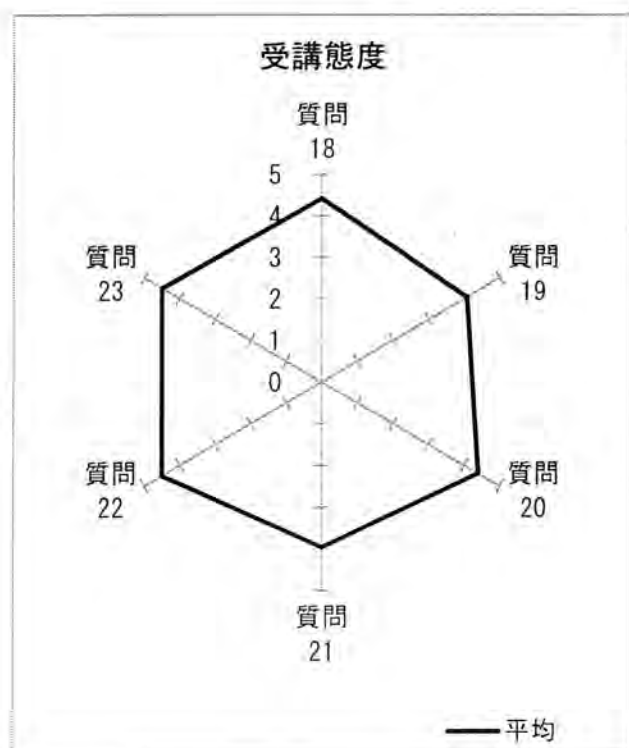
科目コード 622 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 上江洲 香代子 応用栄養学実習Bクラス



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.6	5.0
質問 8	4.6	4.6	5.0
質問 9	4.4	4.4	5.0
質問10	4.5	4.5	5.0
質問11	4.5	4.4	5.0
質問12	4.4	4.4	5.0
質問13	4.2	4.2	5.0
質問14	4.3	4.3	5.0
質問15	4.3	4.4	4.0
質問16	4.5	4.4	5.0
質問17	4.5	4.5	5.0
平均	4.4	4.4	4.9

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.1
質問20	4.4
質問21	4.0
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.3

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	上江洲香代子	応用栄養学実習 B	24 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価は全項目平均 4.2～4.7 で、昨年より 0.3 前後上昇した。全項目において平均と上位グループはほぼ近いポイントでグラフも円形を成して重なっている。下位グループにおいてはほとんどが 5.0 と昨年度より 0.5～1.0 前後上昇した。これは昨年よりも 1 クラスの人数が少なくなったため、より丁寧に対応ができている結果なのか。これまでも同じ項目でも調査年度や対象学生によって評価が上下しており、教員の努力の結果なのかは不明である。今後もその年の学生に応じた内容を工夫する必要がある。今年度は AB クラス別にアンケートを実施したが、下位グループの学生の評価が B クラスでは高かった。

受講態度については平均 4.0～4.5 で、昨年とあまり変わらない。今後も学生の自己評価を高め満足度を高めるように一層の努力が必要と考える。

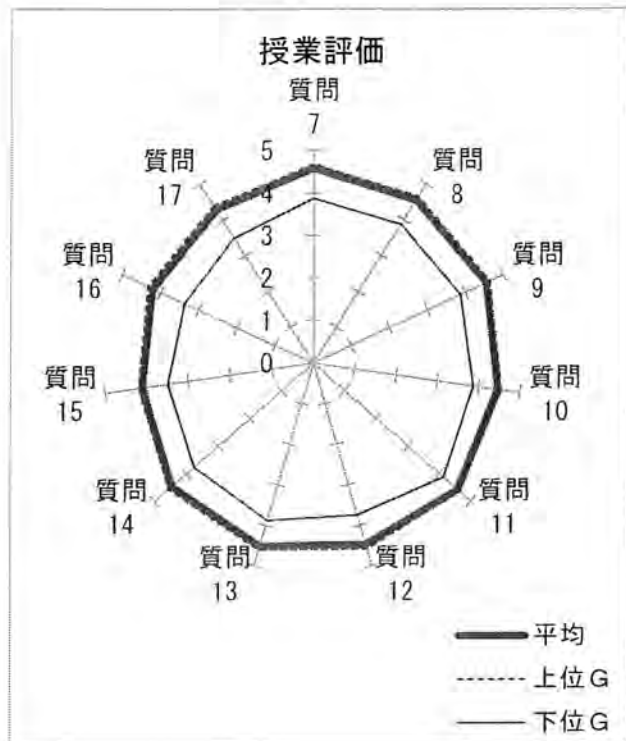
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名： 応用栄養学実習

わかりやすい授業説明のためにさらなる工夫をするつもりである。実習内容に新しい項目を追加して学生の授業への興味や関心を喚起し、さらに理解を深めてもらうようにしたいと考えている。授業内容や到達目標の理解についても改めて確認しながら進めたい。

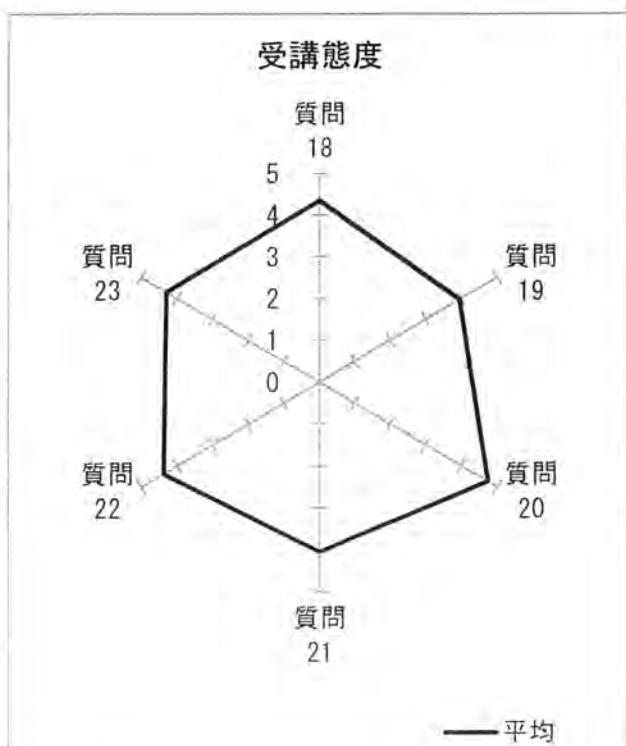
科目コード 630 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 吉井学・松本逸郎 臨床医学実験



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.6	4.7	3.9
質問 8	4.5	4.6	3.9
質問 9	4.5	4.6	3.9
質問10	4.5	4.6	3.9
質問11	4.6	4.6	4.1
質問12	4.5	4.6	3.8
質問13	4.5	4.6	3.9
質問14	4.5	4.6	3.8
質問15	4.1	4.2	3.5
質問16	4.2	4.3	3.4
質問17	4.3	4.4	3.5
平均	4.4	4.5	3.8

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.0
質問20	4.7
質問21	4.0
質問22	4.4
質問23	4.3
平均	4.3

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	吉井学	臨床医学実験	76名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本科目は4年生の科目であり、実験実習を主体とするものである。また、非常勤講師と2名の教員で担当している。この教科は特に人体の機能に非常に深く、疾患に直結する学問である。そのため、人体の構造と機能の科目や生化学関係の科目および臨床検査医学の理解が不可欠の実習である。今回のアンケート集計によりこの教科が新しい知識・技術・理論等の習得への有用性について9.3% (5名) が「どちらかといえば有用とは思わない」と答えている。管理栄養士が病院に勤務する上では有用と考えられるので、由々しき結果と捉えている。これらの科目内容については不得手意識が強い学生が多いのは2年次の臨床検査医学という教科の理解が不十分であったと考えられる。この教科に辿り着くまでには生化学から始まり病態生理・生化学の内容を理解したうえ、人体の構造・機能の知識と相まってはじめて臨床医学のスタートであると考えられる。理解してもらうには相当の時間を必要とすることは明らかである。質問15から17の授業の理解と興味・意欲、新しい知識・理論等に関する評価平均について役10%の学生が理解不十分であると思われる。個人の理解性が平均値4.2 (範囲: 3.4~4.4) である。やはり、生化学や人体分野の教科からの復習を早い時期に実施して基礎知識を十分に習得させる必要を認める。

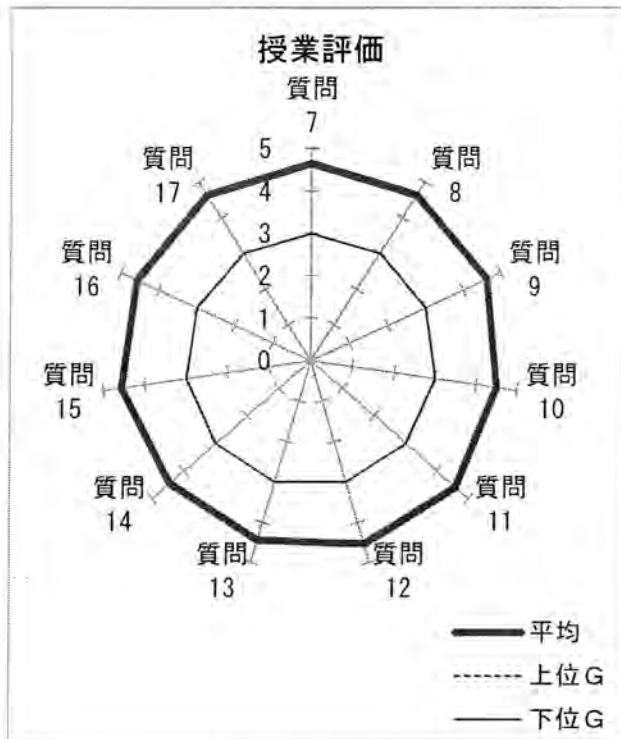
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：臨床医学実験

学生が質問をしやすい環境を整備する。具体的には実験開始以前に手順書と測定原理及び結果の見方について熟読させるとともに、代謝と疾患の関係について十分な予習の機会を設ける。また、医学や人体の用語が理解できない学生は、質問したくても周囲の学生の目を気にして質問出来なかったり、解らない授業内容の把握すらできない学生が存在している。そこでグループ学習の形成を促し、グループ内で分からないのは自分だけではないということを気付かせたいと考える。グループ内で解らない事項や語彙について調べること。そして質問することを習慣づけたい。また、この強化に直結する分野の基礎学力をつけるための補講の実施が必須と考える。1・2年次に補講を計画したい。

科目コード 633 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 松永 知恵 栄養教育論実習



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	3.0
質問 8	4.6	4.7	3.0
質問 9	4.6	4.7	3.0
質問10	4.5	4.5	3.0
質問11	4.6	4.6	3.0
質問12	4.5	4.6	3.0
質問13	4.4	4.5	3.0
質問14	4.4	4.5	3.0
質問15	4.6	4.6	3.0
質問16	4.6	4.6	3.0
質問17	4.6	4.7	3.0
平均	4.6	4.6	3.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

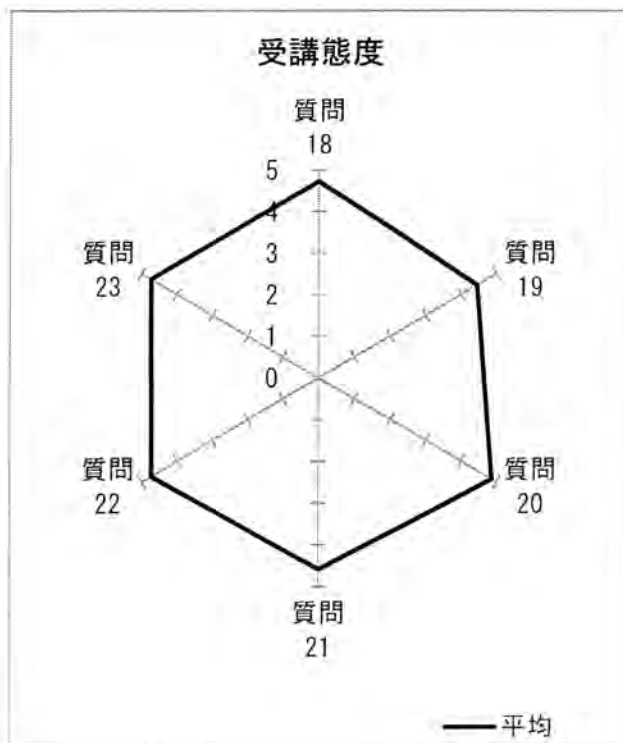
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.4
質問20	4.9
質問21	4.6
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	松永 知恵	栄養教育論実習	66

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の平均点は全体的には非常に良い評価で、多くの学生は受講態度も良かった。しかしながら、受講態度下位 G の学生が、全ての項目に「どちらともいえない」と答えていた。この学年は、2 年次の「栄養教育論 I」から受講態度が悪い学生が多く目立っていた。本学科の専門必修科目であるため、受講生が多く、また、授業内容も多いにもかかわらず、時間は限られている。学生の理解度に差があるクラスでは、授業運営が難しいと常々感じている。理解度が低い学生は今後も増えるのではないかと懸念する。どのように教育すればよいか、さらなる教育方法を見つけ、学生の理解度・満足度の高い授業を目指したい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

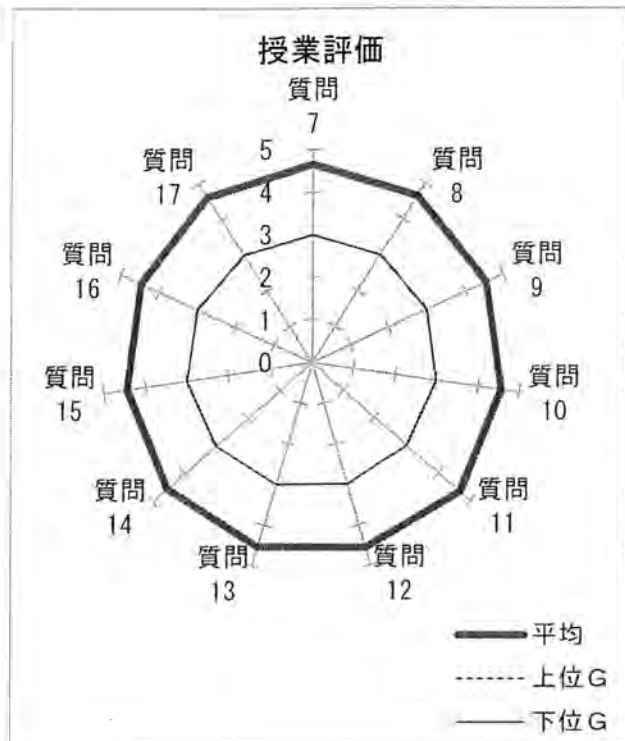
2019 年度担当予定科目名： 栄養教育論実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

昨年度まで、「どちらかといえばそう思わない」という回答をする学生が少数存在していたが、今年度は一人もいなかった。授業の中で学生一人一人もしくはグループごとに、課題に対しての補足説明をしたり、学生からの質問に一つ一つ答えていた効果が出たのかもしれない。1 クラス 30 名前後で目がいき届きにくいのだが、今後も学生一人一人にできるだけ対応できるようにしていきたい。その他の気づきも忘れずに、今後も教育内容を充実させたいと思う。今回の結果をふまえ、良い面は広げ、反省すべき点は改善したい。そして、今後も学生の意欲を高めるような授業運営を工夫したいと考える。これまでの結果を、今後の授業に反映し謙虚に学生への教育に励みたい。

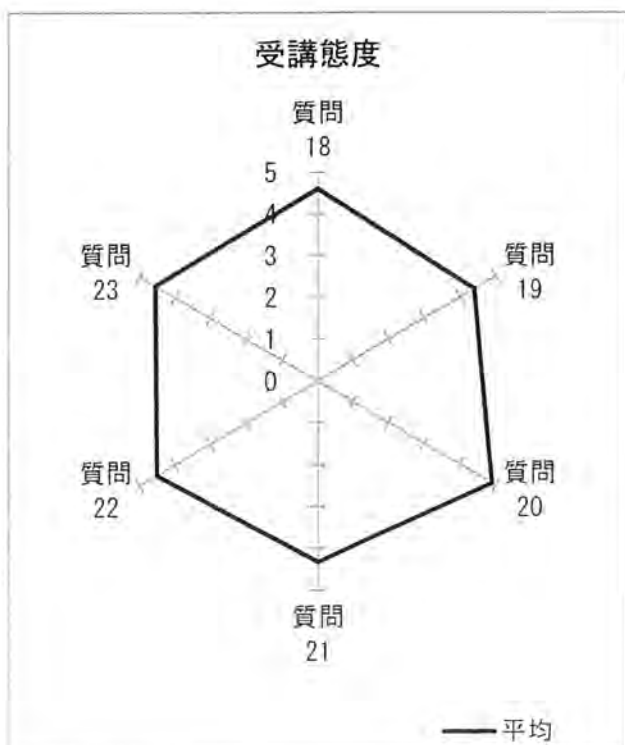
科目コード 634 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 池田 晴美 臨床栄養教育実習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.7	3.0
質問 8	4.7	4.7	3.0
質問 9	4.6	4.6	3.0
質問10	4.6	4.6	3.0
質問11	4.7	4.7	3.0
質問12	4.6	4.6	3.0
質問13	4.5	4.6	3.0
質問14	4.5	4.6	3.0
質問15	4.4	4.5	3.0
質問16	4.5	4.5	3.0
質問17	4.6	4.7	3.0
平均	4.6	4.6	3.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.4
質問20	4.9
質問21	4.3
質問22	4.5
質問23	4.6
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	池田 晴美	臨床栄養教育実習	64 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

臨床栄養教育実習はグループ学習による臨床の現場における集団及び個人栄養指導の方法及びケアプロセスの手法を用いた指導報告書の書き方を学ぶことを目的としている。授業評価平均 4.6 (昨年 4.7) 受講態度平均 4.5 (昨年 4.7) より比較分析した。受講態度は欠席者が少なく、毎回積極的に真面目に取り組む学生が多いことから評価が高いと分析する。授業評価は「教員の説明の分かりやすさ」4.7 (昨年 4.9) 「学生の理解度の確認と授業への反映」4.5 (昨年 4.8) と少しポイントが減少していた。これは昨年と違い報告書の書き方に栄養ケアプロセスの方法を導入したことから、教科書にない資料を用いての解説であったため分かりにくい点があったと考えられる。

II. 2019 年度に向けての取り組み

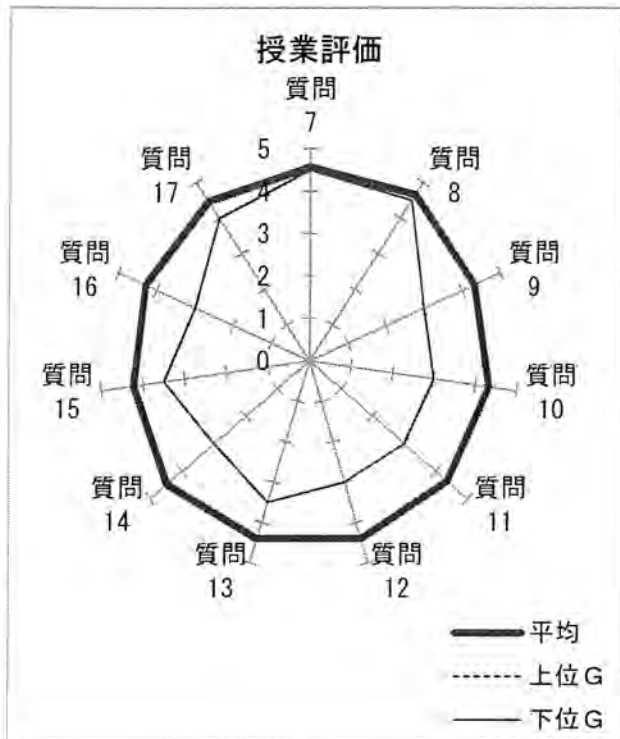
2019 年度担当予定科目名： 臨床栄養教育実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今年度は 4 人グループという少ない人数編成で実習を行った。集団指導、個人指導の準備は全員が参加でき 4 人は良かったとの感想であったことから今後も少人数のグループ編成を考えたい。指導報告書の書き方が十分理解できた学生とできていない学生がいたようなので、今後の課題としたい。

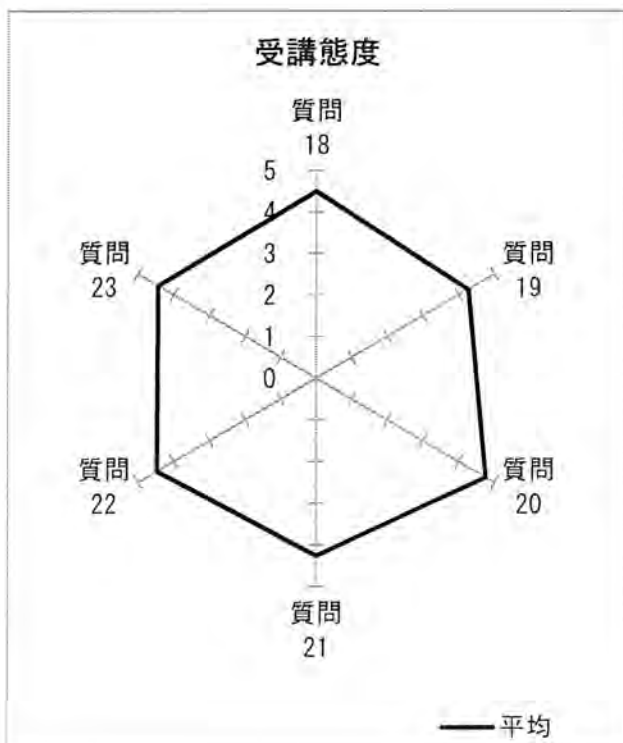
科目コード 635 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 藤 希望 臨床栄養評価・管理実習



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.6	4.6	4.5
質問 8	4.7	4.7	4.5
質問 9	4.3	4.4	3.0
質問10	4.3	4.4	3.0
質問11	4.4	4.4	3.0
質問12	4.4	4.5	3.0
質問13	4.4	4.4	3.5
質問14	4.5	4.5	3.0
質問15	4.2	4.3	3.5
質問16	4.3	4.3	3.0
質問17	4.5	4.5	4.0
平均	4.4	4.4	3.5

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	4.8
質問21	4.3
質問22	4.5
質問23	4.4
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	藤 希望	臨床栄養評価・管理実習	67

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の平均点は、ほぼ昨年と同様であった。昨年の授業方法と変更した点は、同時期開講の「臨床栄養評価・管理論」で理論を学び、本実習で症例を通して栄養アセスメントの方法や栄養補給方法、栄養補給量、栄養指導などの計画立案、モニタリング、再評価など一連の栄養管理を体系的に学習できるようにした点である。しかし、質問 15 の「授業を理解できたと思うか」については、上位 G と下位 G の差は他項目よりも小さかったものの、平均点は質問項目の中で最も低いものであった。「理論」と「実践」を組み合わせる時間を有効に活用し、症例問題を多く取り入れることで、理解を深められるように授業を進めており、授業内での学生の感想からも「講義だけでは分からなかったが、実習を通して理解できた」との意見が多く見られていたが、授業評価の結果ではその効果は十分ではないようである。原因として、様々な疾患の栄養管理について学べるように、より多くの症例を取り入れたため、個々の症例にかける時間が短くなり、十分な理解を得ないまま進んでいた可能性がある。また、質問 9、10、11、12、14、16 については上位 G と下位 G の差が大きく開いていた。下位 G においては、授業がわかりにくい⇒おもしろくない⇒授業への参加意欲が落ちる⇒さらにわからなくなる、といった負のスパイラルに陥っている可能性があるため、積極的に授業に参加できるよう、授業方法についても検討する必要がある。

II. 2019 年度に向けての取り組み

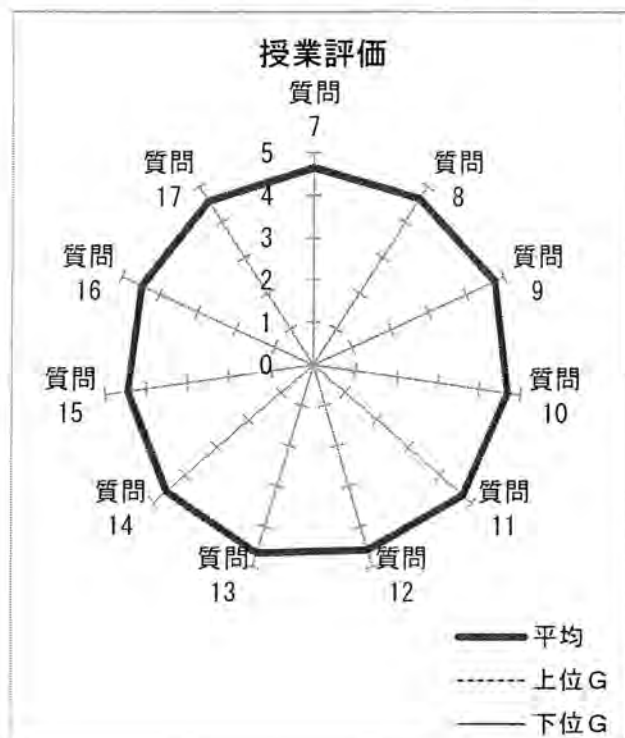
2019 年度担当予定科目名： 臨床栄養評価・管理実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

講義の「理論」と実習の「実践」を組み合わせることで、説明にかける時間を一部短縮し、より多くの症例を通して疾患ごとの栄養管理について学ぶことはできるが、ただ数を増やすだけでは効果が得られないため、小テストやレポートなどで学生の理解度を確認しながら進めていきたい。また、症例検討は個人で行うことが多いが、意見交換をしたり、教え合ったりすることで、理解を深めることができるようにグループワークも取り入れていきたい。

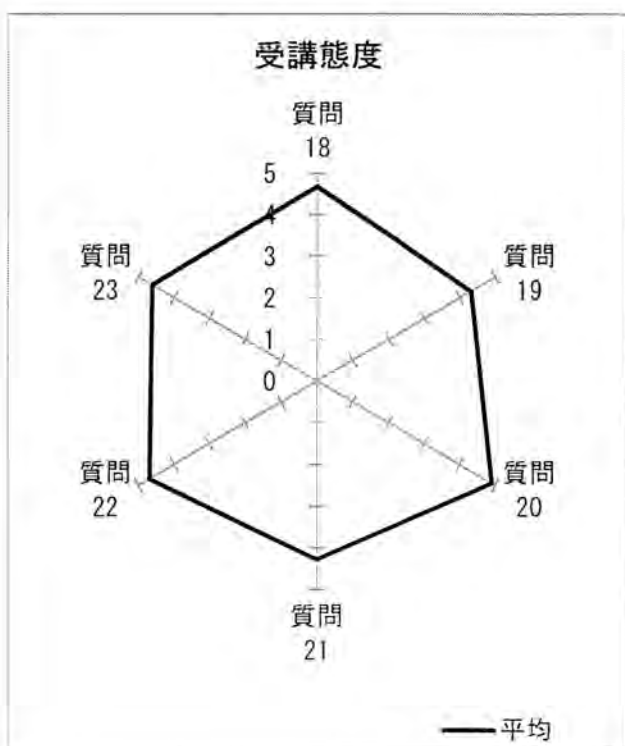
科目コード 636 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 山田 加奈子 公衆栄養学実習(Aクラス)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 8	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.7	4.7	#DIV/0!
質問11	4.7	4.7	#DIV/0!
質問12	4.6	4.6	#DIV/0!
質問13	4.7	4.7	#DIV/0!
質問14	4.6	4.6	#DIV/0!
質問15	4.4	4.4	#DIV/0!
質問16	4.5	4.5	#DIV/0!
質問17	4.6	4.6	#DIV/0!
平均	4.6	4.6	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.3
質問20	4.9
質問21	4.3
質問22	4.7
質問23	4.6
平均	4.6

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	山田加奈子	公衆栄養学実習	65

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体を見ると評価は低い値ではないが、昨年と異なり、A クラスと B クラスの評価の差はあまりなかった。毎回、問 15「授業の理解度」、問 16「興味・関心」について評価が低いことが多かったが今回は A クラスが 4.4 と 4.5、B クラスは 4.6 と 4.7 と、比べ評価は低くなかったが全体的に見て最も低いものは問 15 であった。昨年の評価をもとに本年度は内容を変えたので、その内容が高い評価に繋がったと考える。

II. 2018 年度に向けての取り組み

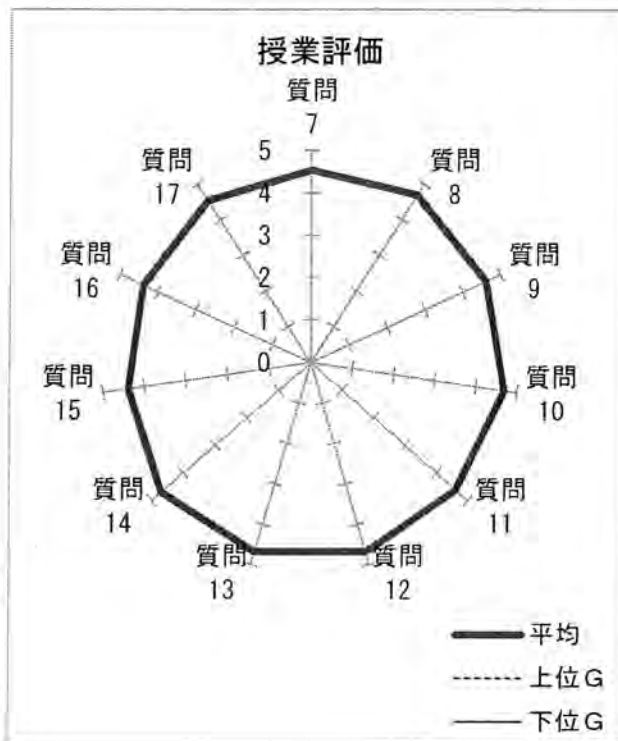
2018 年度担当予定科目名：公衆栄養学実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

昨年の分析として「実習の中で、現在の健康問題に関する情報や事例を学生に与えてはいたが、どのような健康問題があり、それについてどのような解決策がとられているか等、各章で説明はしたが一連の流れの説明をしなかったため、それらを繋げることのできない学生は理解不足であったのではないかと考える。自ら健康問題について考える力を身に付けるだけでなく、その改善策についての現状などの理解を深めさせる必要があると考える。」としていた。本年度は、自ら健康課題を見つけ出す項目を取り入れ、健康課題の発見・また問題解決の方法を授業に取り入れたので、学生の理解力も上がり、高い評価に繋がったと考えられる。来年度も内容を展開し、さらに充実したものにしたい。

科目コード 638 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 福田 理香 健康運動指導演習Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 8	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 9	4.6	4.6	#DIV/0!
質問10	4.7	4.7	#DIV/0!
質問11	4.6	4.6	#DIV/0!
質問12	4.7	4.7	#DIV/0!
質問13	4.7	4.7	#DIV/0!
質問14	4.7	4.7	#DIV/0!
質問15	4.4	4.4	#DIV/0!
質問16	4.4	4.4	#DIV/0!
質問17	4.5	4.5	#DIV/0!
平均	4.6	4.6	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

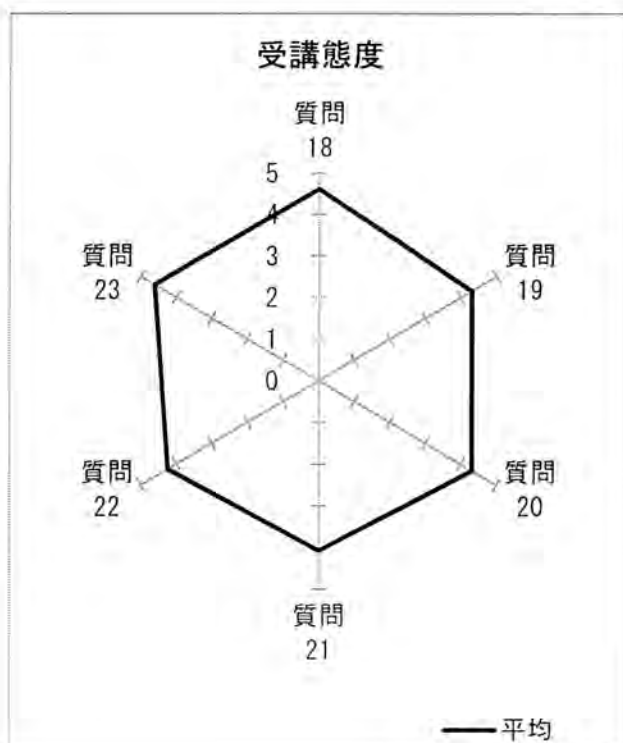
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.3
質問20	4.3
質問21	4.1
質問22	4.2
質問23	4.6
平均	4.4

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	福田 理香	健康運動指導演習Ⅱ	14 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この授業は、健康運動実践指導者の資格取得に向けた学科試験対策を主眼とした科目である。毎年、授業が始まったころは、理解度が低い学生も多くみられ、学生以上に不安になる。しかし、回を追うごとに危機感を持ち始め授業への取り組み方もよい方向に変化していく。本授業評価も、受講者のモチベーションの変化を反映したものと考えられる。2018 年度も受験者 14 名全員が認定試験に合格することができた。

II. 2019 年度に向けての取り組み

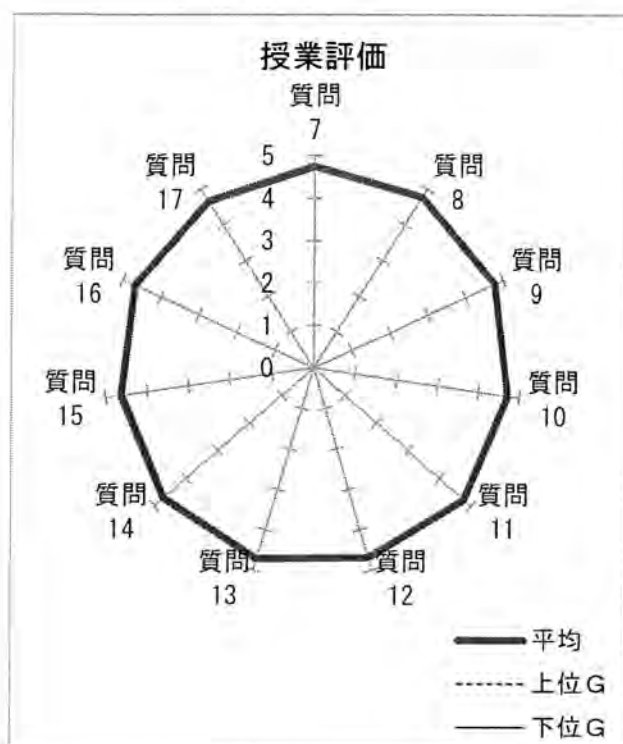
2019 年度担当予定科目名：健康運動指導演習Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

上述したように、資格取得に向けた認定試験対策の授業であり、一定の成果を得ている。これまでの受験生が提供してくれた認定試験内容の情報をもとに作成した問題集を解かせて、解説するといったこれまでのスタイルを継続していくことがまずは必要であろう。そして、資格取得後、集団に対して運動指導をする際にどのように活かすことができるのか考える機会となるような授業にしていきたいと考えている。

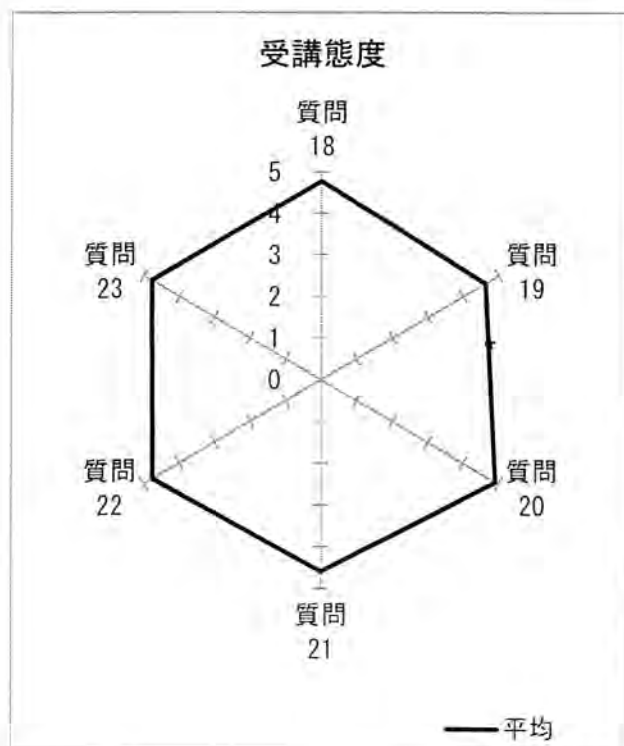
科目コード 641 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 山田 加奈子 公衆栄養学実習(Bクラス)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.7	4.7	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.7	4.7	#DIV/0!
質問13	4.7	4.7	#DIV/0!
質問14	4.7	4.7	#DIV/0!
質問15	4.6	4.6	#DIV/0!
質問16	4.7	4.7	#DIV/0!
質問17	4.7	4.7	#DIV/0!
平均	4.7	4.7	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.6
質問20	4.9
質問21	4.6
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	山田加奈子	公衆栄養学実習	65

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体を見ると評価は低い値ではないが、昨年と異なり、A クラスと B クラスの評価の差はあまりなかった。毎回、問 15「授業の理解度」、問 16「興味・関心」について評価が低いことが多かったが今回は A クラスが 4.4 と 4.5、B クラスは 4.6 と 4.7 と、比べ評価は低くなかったが全体的に見て最も低いものは問 15 であった。昨年の評価をもとに本年度は内容を変えたので、その内容が高い評価に繋がったと考える。

II. 2018 年度に向けての取り組み

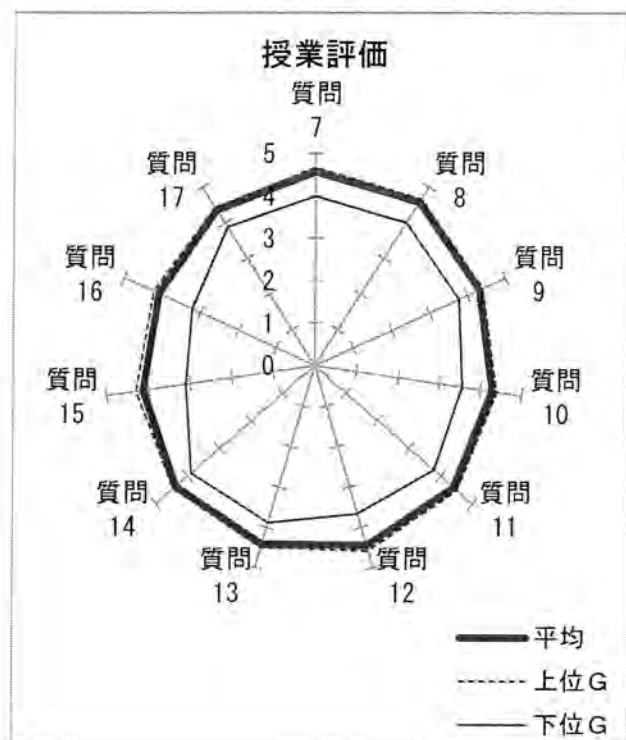
2018 年度担当予定科目名：公衆栄養学実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

昨年の分析として「実習の中で、現在の健康問題に関する情報や事例を学生に与えてはいたが、どのような健康問題があり、それについてどのような解決策がとられているか等、各章で説明はしたが一連の流れの説明をしなかったため、それらを繋げることでできない学生は理解不足であったのではないかと考える。自ら健康問題について考える力を身に付けるだけでなく、その改善策についての現状などの理解を深めさせる必要があると考える。」としていた。本年度は、自ら健康課題を見つけ出す項目を取り入れ、健康課題の発見・また問題解決の方法を授業に取り入れたので、学生の理解力も上がり、高い評価に繋がったと考えられる。来年度も内容を展開し、さらに充実したものにしたい。

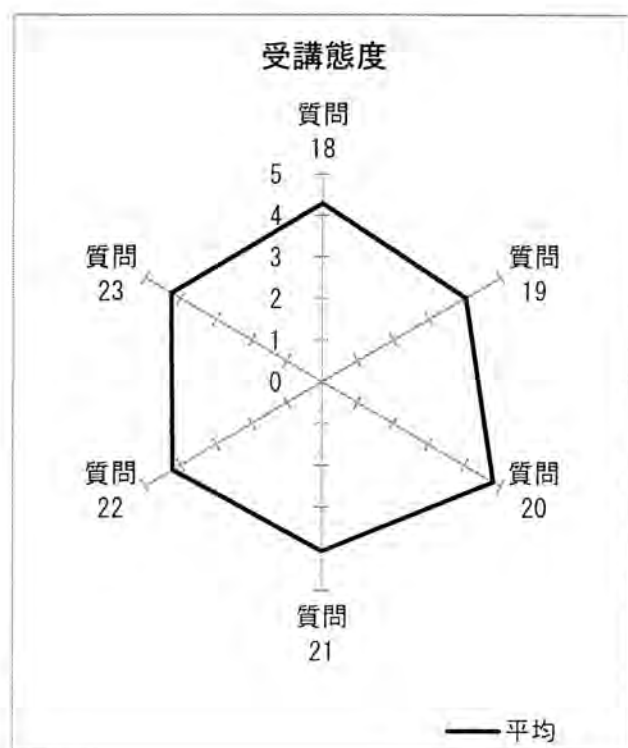
科目コード 642 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 藤 希望 臨床栄養評価・管理論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.6	4.7	4.0
質問 8	4.6	4.7	4.0
質問 9	4.3	4.4	3.8
質問10	4.3	4.4	3.6
質問11	4.4	4.5	3.8
質問12	4.5	4.6	3.7
質問13	4.4	4.5	3.9
質問14	4.4	4.5	3.9
質問15	4.1	4.3	3.1
質問16	4.1	4.2	3.2
質問17	4.4	4.4	3.9
平均	4.4	4.5	3.7

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.0
質問20	4.8
質問21	4.1
質問22	4.2
質問23	4.3
平均	4.3

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	藤 希望	臨床栄養評価・管理論	67

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本科目は本年度が初めての担当であった。授業としては、「臨床栄養評価・管理実習」とリンクさせており、本科目で「理論」を学び、実習で「実践」を行うという流れで行った。前期開講の「臨床栄養学Ⅱ」の授業と重なる部分も多い科目であるが、質問項目の 15「授業を理解できたと思うか」は、他の質問項目の中でも最も平均が低く、理解度はあまり良くないようであった。また、質問 16 の「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」も質問 15 同様に平均点が低く、この 2 点は上位 G と下位 G との差も大きかった。「臨床栄養評価・管理実習」では、下位 G の度数は「2」であったが、本科目では「9」と多くなっていた。授業で扱う内容としては同じであるが、講義と実習では、授業形態が違い、学生の授業への参加態度、理解度にも変化がみられるようである。講義では一方的になりがちであり、実習で症例問題を扱うことから、小テストなどの理解度確認が少なかったため、学生の理解度を確認しながら、学生が興味・関心を持てるように授業の進め方を検討する必要がある。

II. 2019 年度に向けての取り組み

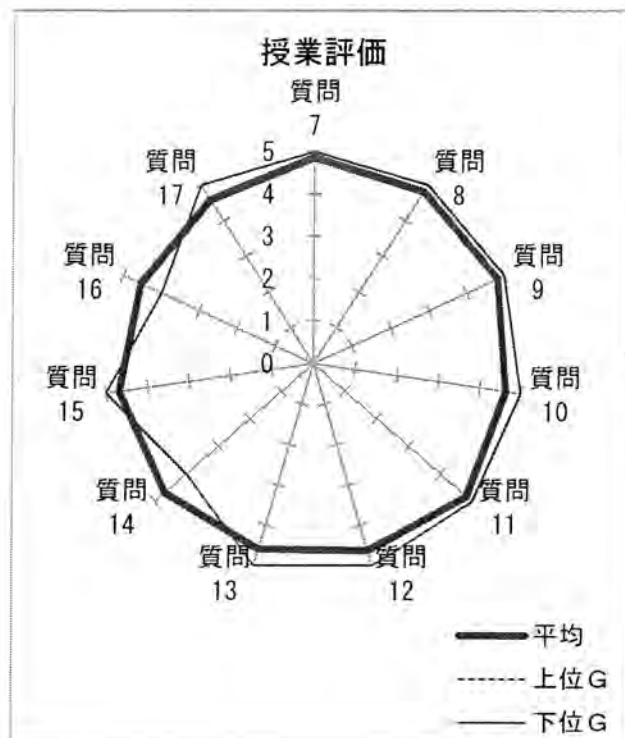
2019 年度担当予定科目名： 臨床栄養評価・管理論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

本科目の理解が「臨床栄養評価・管理実習」へも影響するため、その都度理解できるように小テストなどを行い、学生の理解度に応じて授業を進めていきたい。また、講義形式であるため、一方的になりがちであるが、講義の中でも、ペアワークなどを取り入れながら、学生が積極的に学べるように学習環境についても配慮していきたい。

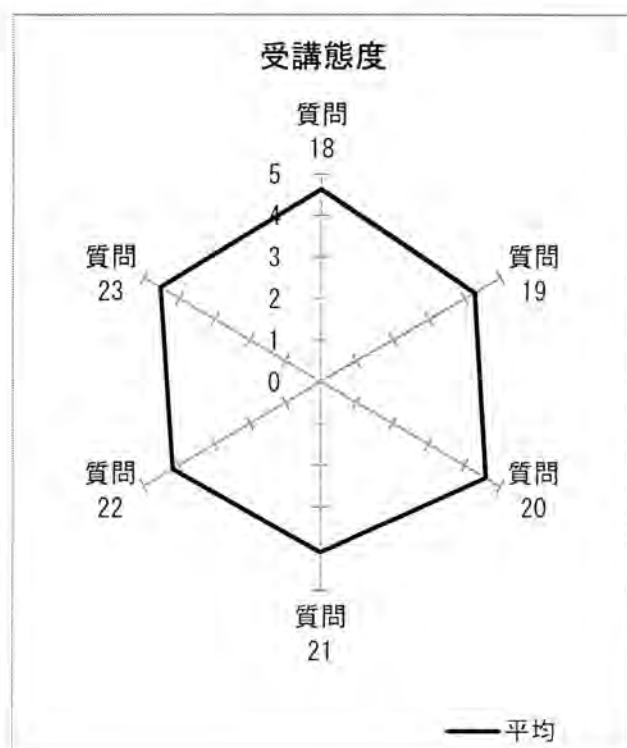
科目コード 665 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 阿部 麗 健康・スポーツ実技 I (食健A)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.6	4.6	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.6	4.6	5.0
質問13	4.6	4.6	5.0
質問14	4.7	4.7	4.0
質問15	4.7	4.7	5.0
質問16	4.5	4.6	4.0
質問17	4.6	4.6	5.0
平均	4.7	4.7	4.8

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.3
質問20	4.6
質問21	4.1
質問22	4.2
質問23	4.5
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科 A	阿部 麗	健康・スポーツ実技 I	22

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の平均値は、4.7 と概ね良好な評価であった。評価の要因としては、学生が主体的、積極的に受講してくれたことが大きいと考えている。

受講態度の項目においては、質問 19 の「授業内容や到達目標の理解」、質問 21 の「予習・復習」、質問 22 の「レポート・課題」の項目において 4.1～4.3 とやや低い値を示した。質問 19 については、質問 7「授業の目標説明」に関しては高い値を示しているため、各単元の到達目標を毎回確認する、動機づけを高められるようなテーマを設定する等、改善を図りたい。質問 21、22 については、課題の習熟度に合わせて、スキルや習得のための練習方法を提示する等、一人ひとりの学生に今まで以上に目をかけていきたい。また、トレーニング室に新しい用具が仲間入りしたこと、その用具にどのような効果があるのかを紹介し、少しでも健康やスポーツに日常的に親しみを持って取り組んでもらうことのできるよう、情報発信をしたい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

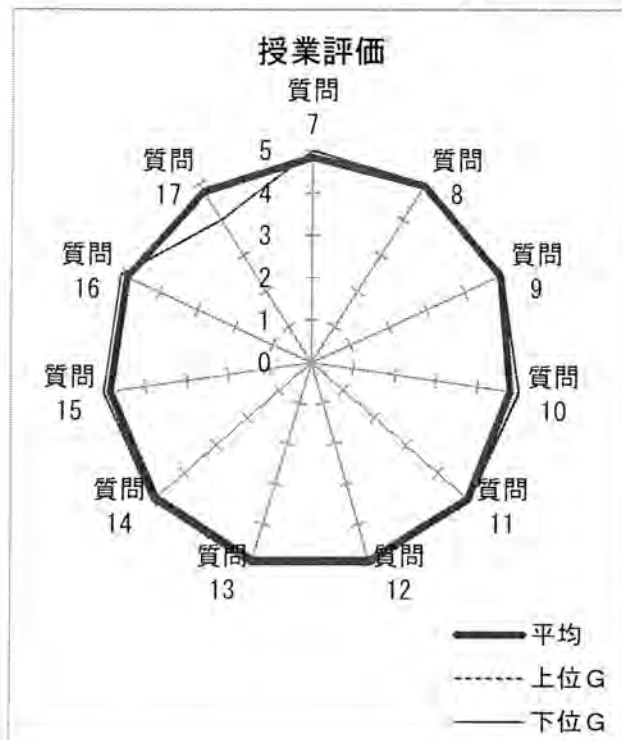
2019 年度担当予定科目名： 健康・スポーツ実技 II

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I. 分析と評価の下線部について取り組んでいきたい。

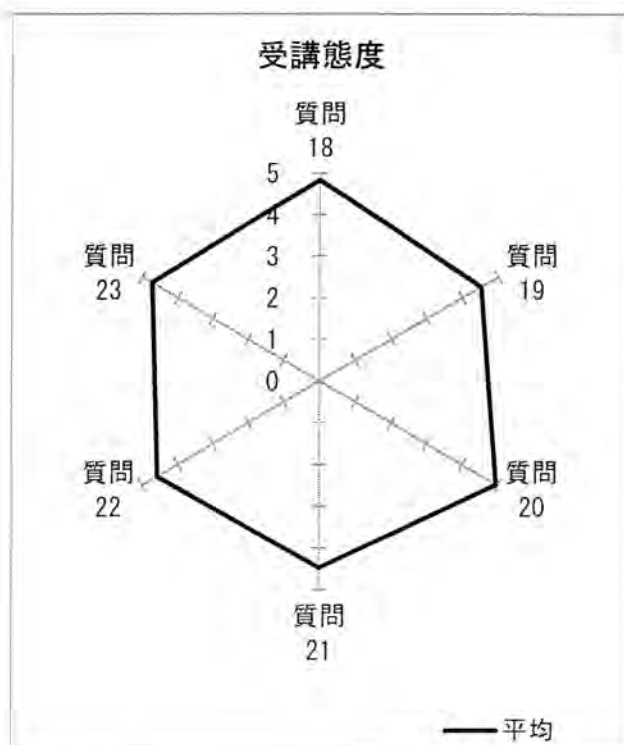
科目コード 666 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 阿部 麗 健康・スポーツ実技 I (食健B)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	5.0
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.8	4.8	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.9	4.9	5.0
質問13	4.9	4.9	5.0
質問14	4.9	4.9	5.0
質問15	4.8	4.8	5.0
質問16	4.8	4.8	5.0
質問17	4.8	4.8	4.0
平均	4.9	4.9	4.9

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	4.9
質問21	4.5
質問22	4.6
質問23	4.7
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

ryv学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科B	阿部 麗	健康・スポーツ実技Ⅰ	20

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の平均値は、4.9と概ね良好な評価であった。高評価の要因としては、受講態度の平均値4.7からも見て取れるように、学生が授業に対し、主体的、積極的に受講してくれたことが大きいと考えている。また、高校時に運動部に所属をしていた学生がリーダーシップを取ってくれたことも、授業のスムーズな進行に貢献してくれた。

受講態度の項目においては、質問21の「予習・復習」が4.5、質問22の「レポート・課題」が4.6のやや低い値を示した。しかしながら、各項目「どちらともいえない」が5.3%であったため、全体の傾向としては良く取り組むことができていたのではないかと考えている。

生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことを目的とする本授業では、予習・復習が大切な項目の1つであると考えている。今後は、個人の習熟度に応じた指導にさらに力を入れるとともに、課題の難易度の調整や、新たに用具が加わったトレーニング室の利用の呼びかけを行い、授業やスポーツ活動に対しての動機づけを少しでも高められるよう取り組んでいきたい。

II. 2019年度に向けての取り組み

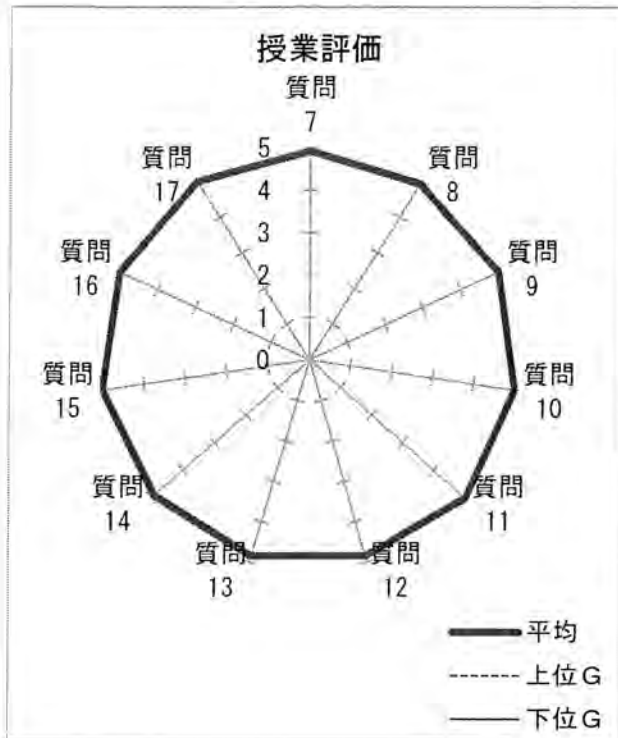
2019年度担当予定科目名：健康・スポーツ実技Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I. 分析と評価の下線部について取り組んでいきたい。

科目コード 672 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 阿南 祐也 健康・スポーツ実技 I (看護A)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

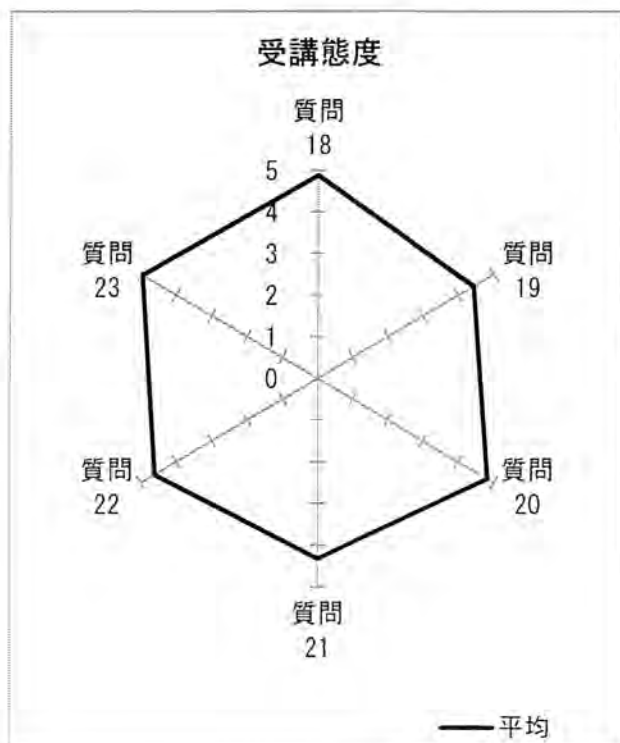
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.4
質問20	4.8
質問21	4.3
質問22	4.6
質問23	5.0
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	阿南 祐也	健康・スポーツ実技Ⅱ (看護A)	35 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本授業の到達目標は、基本的な技術の習得やスキル向上を通して、運動・スポーツに親しむことと健康的な身体づくりができるようになること、チームごとに技術や戦術に関するディスカッションを行うことで他者と協同する態度を身につけることであった。内容は、体力測定、バスケットボール、ピロポロ、フットサルであった。授業評価は例年通りおおむねポジティブな評価を得ることができた。

スポーツが好きな学生、あまり好きでない学生もいたが、各種目で「できなかったこと」が「できるようになる」体験や友人とスポーツを楽しむことを通して、スポーツに対する認識を変容できたのではないかと考える。また、授業前後の感情変化に関する実験を行うなど「スポーツ “を” 学ぶ」だけでなく「スポーツ “で” 学ぶ」という内容にできたのではないかと考える。将来、健康づくりのための行動の 1 つとしてスポーツを選択してもらえると期待する。

また、看護学科は大村キャンパスでの開講となり、体育館の広さがバスケットコート 1 面分しかないため実施できる内容やゲーム数が限られる。A クラス、B クラスとも授業評価アンケートはおおむねポジティブな評価であったが、活動量の確保や技能向上を効率的に行う方法について今後も継続的に考えていく必要がある。

II. 2019 年度に向けての取り組み

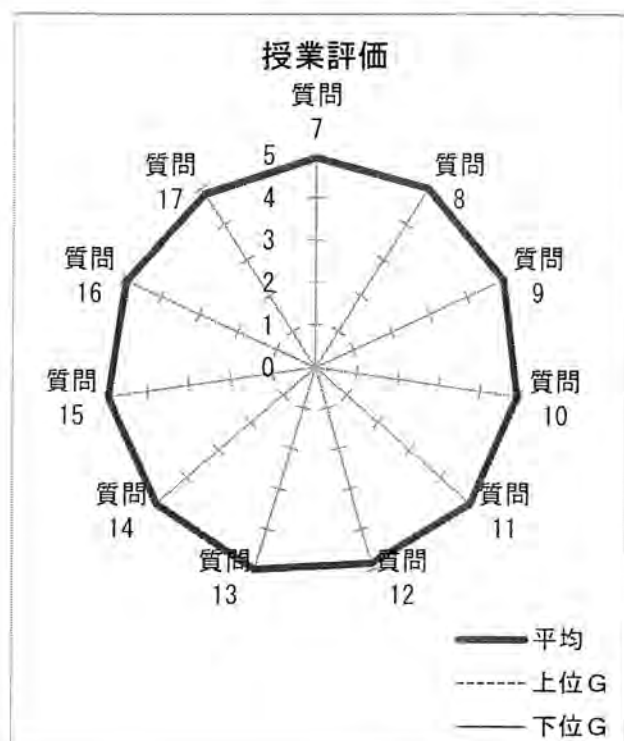
2019 年度担当予定科目名 : 健康・スポーツ実技ⅠⅡ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

大村体育館の広さで「できなかったこと」が「できるようになる」体験を多く経験させる工夫や授業時間外でも運動・スポーツを楽しむ機会を増やせる工夫をしていきたい。

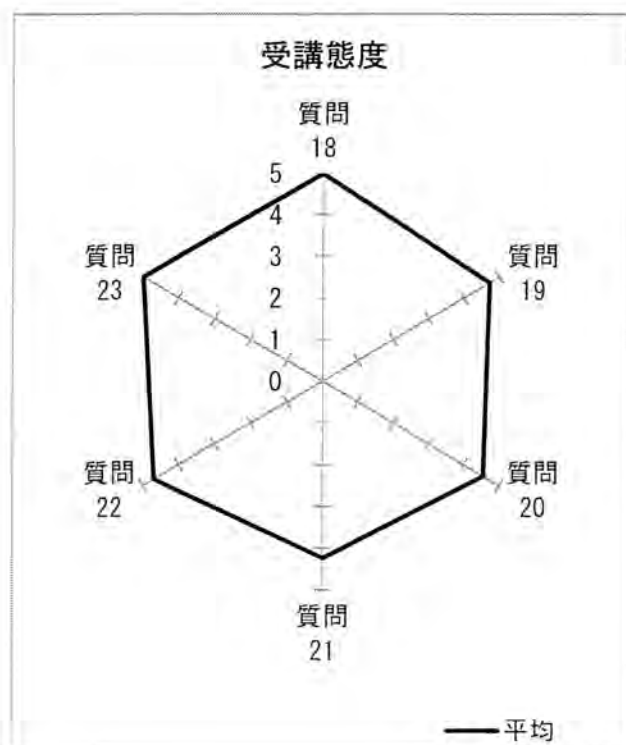
科目コード 673 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 阿南 祐也 健康・スポーツ実技 I (看護B)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.7
質問20	4.5
質問21	4.2
質問22	4.7
質問23	5.0
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	阿南 祐也	健康・スポーツ実技Ⅱ (看護B)	35 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本授業の到達目標は、基本的な技術の習得やスキル向上を通して、運動・スポーツに親しむことと健康的な身体づくりができるようになること、チームごとに技術や戦術に関するディスカッションを行うことで他者と協同する態度を身につけることであった。内容は、体力測定、バスケットボール、ピロポロ、フットサルであった。授業評価は例年通りおおむねポジティブな評価を得ることができた。

スポーツが好きな学生、あまり好きでない学生もいたが、各種目で「できなかったこと」が「できるようになる」体験や友人とスポーツを楽しむことを通して、スポーツに対する認識を変容できたのではないかと考える。また、授業前後の感情変化に関する実験を行うなど「スポーツ“を”学ぶ」だけでなく「スポーツ“で”学ぶ」という内容にできたのではないかと考える。将来、健康づくりのための行動の1つとしてスポーツを選択してもらえると期待する。

また、看護学科は大村キャンパスでの開講となり、体育館の広さがバスケットコート1面分しかないため実施できる内容やゲーム数が限られる。Aクラス、Bクラスとも授業評価アンケートはおおむねポジティブな評価であったが、活動量の確保や技能向上を効率的に行う方法について今後も継続的に考えていく必要がある。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名 : 健康・スポーツ実技ⅠⅡ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

大村体育館の広さで「できなかったこと」が「できるようになる」体験を多く経験させる工夫や授業時間外でも運動・スポーツを楽しむ機会を増やせる工夫をしていきたい。